昭和55年7月15日発行（毎月1回15日発行 通巻129号）

バドミントン 7

The Badminton World No.129 1980





carlton
That's the name of the game

ニュー・フェザー・シャトルコック
carlton SUPER

衝撃のシャトル! 今,カールトンから。

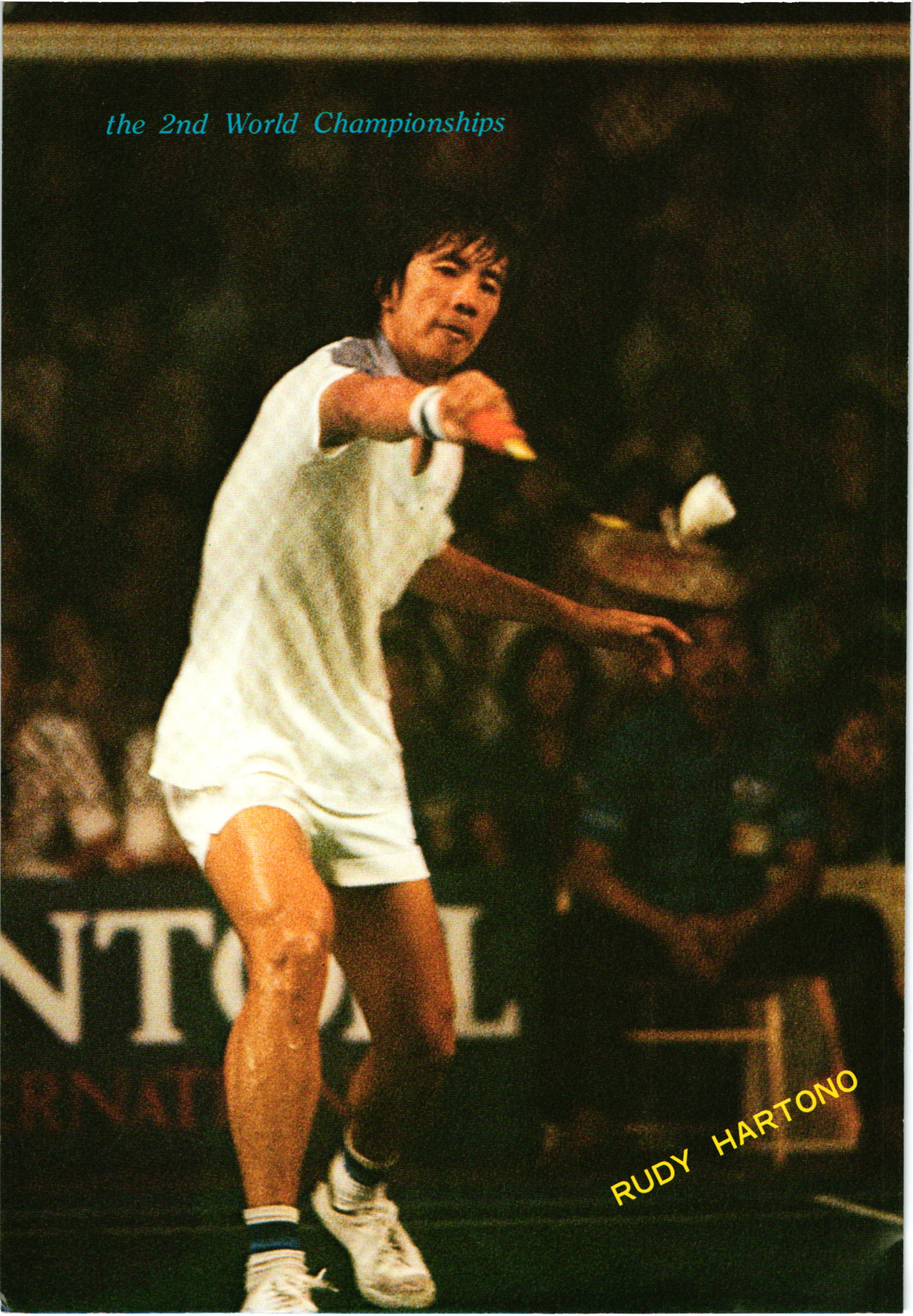
常に世界のバドミントンをリードする英国カールトン社が,またもや画期的な発明をやり遂げました。ナイロン・シャトルコック一筋に半世紀,世界のナイロン・シャトル市場で90%以上のシェアを持つカールトンならではの新製品です。研究・開発に5年以上の歳月を費やし,数億円にのぼる開発費を投入して完成されたこの新製品は,従来の水鳥球とほぼ同じ型体と性能を有し,しかも耐久性は3倍～5倍という画期的な製品です。世界的に水鳥球の供給が,問題とされている今日,私達はこの新製品に絶大なる自信を持ち,〝ナイロン・シャトルコック〟と言わずあえて〝ニュー・フェザー・シャトルコック〟と呼びたいと思います。カールトンは常に一歩先を見つめ明日のバドミントンを考えます。ご期待ください。

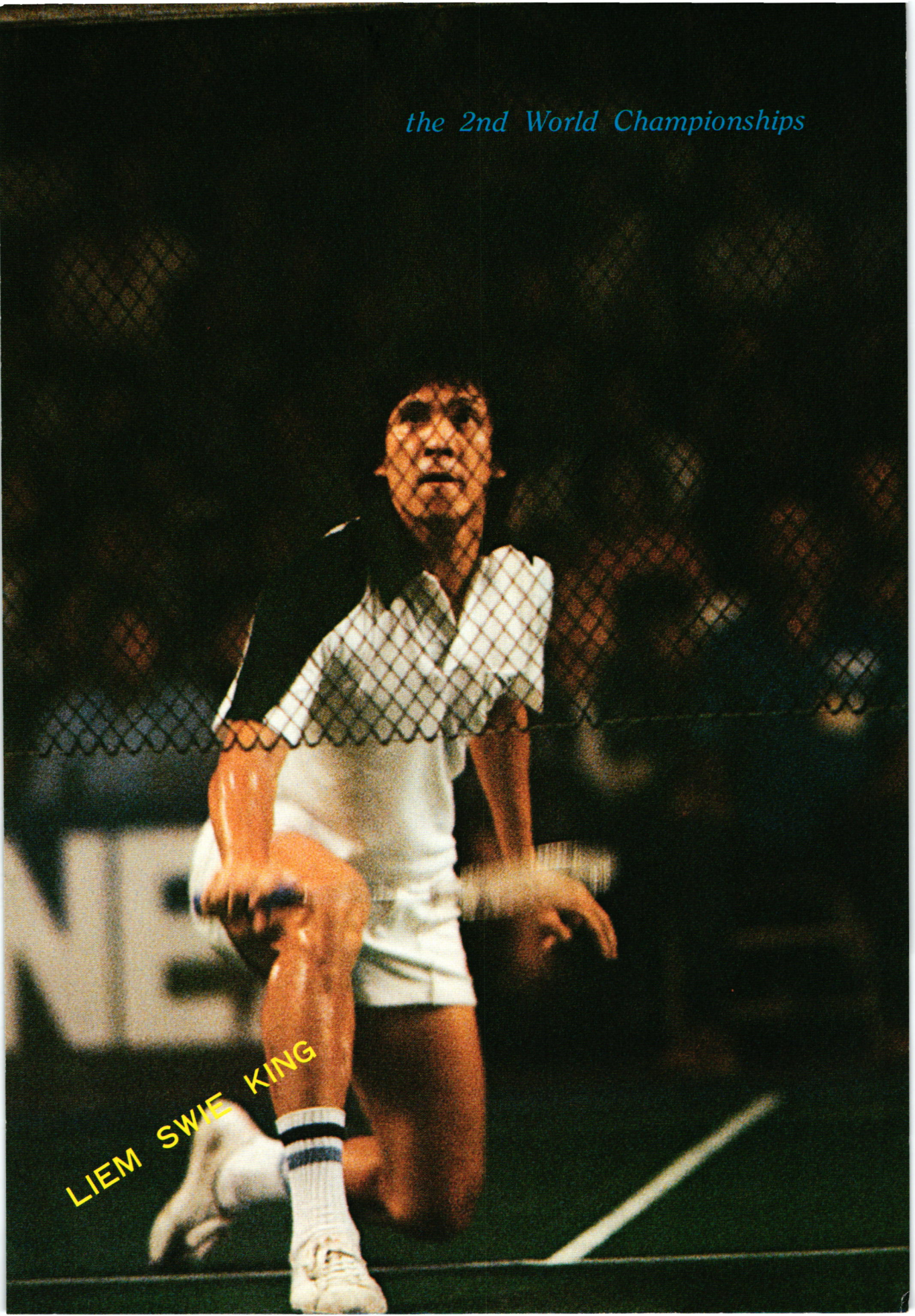


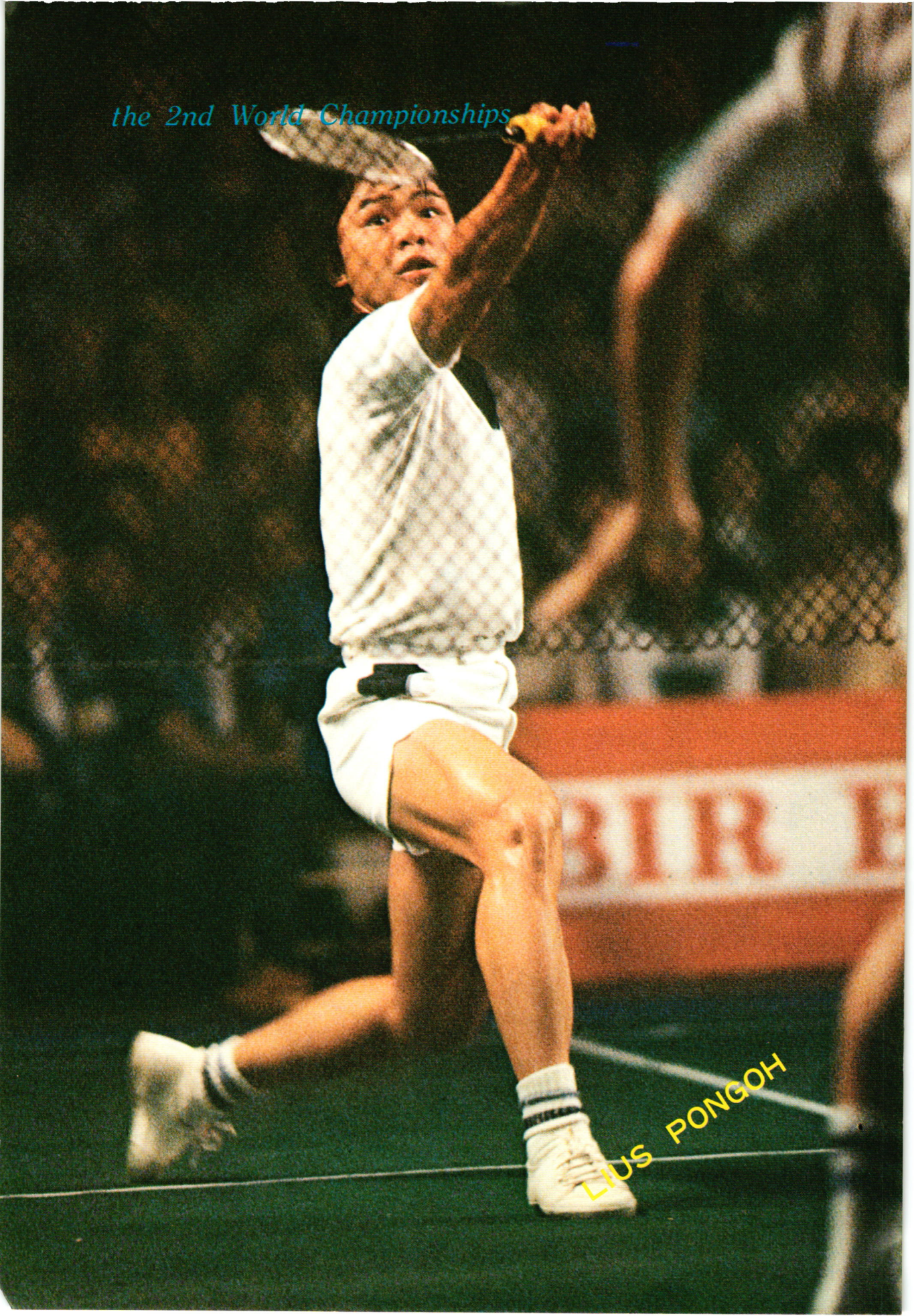
1ダース¥6,000(1個¥500)

10月下旬発売

METRO 総輸入元 メトロレジャー株式会社 〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661(代)


the 2nd World Championships
RUDY HARTONO

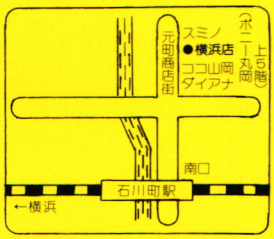

the 2nd World Championships
LIEM SWIE KING


the 2nd World Championships
LIUS PONGOH

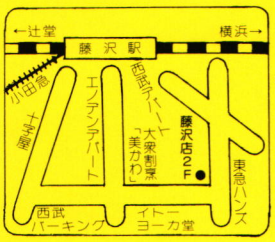
栄光への
アドバイザリー・プロショップ

ラケットショップ元町

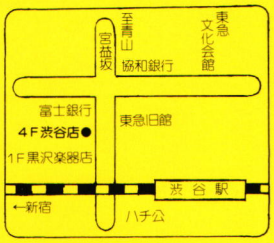




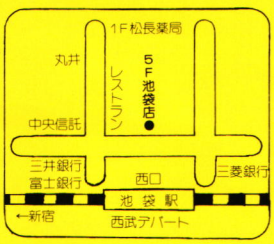
●横浜店
☎045-662-7133
4F バドミントン・フロア
☎045-651-9570
5F テニス・フロア
☎045-662-9202



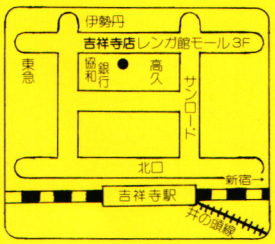
●藤沢店
☎0466-26-2552
テニス・バドミントン



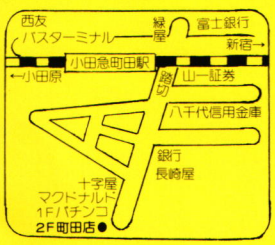
●渋谷店
☎03-3400-7390
バドミントン・プロショップ



●池袋店
☎03-988-0215
バドミントン・プロショップ



●吉祥寺店
☎0422-21-7890
バドミントン・プロショップ



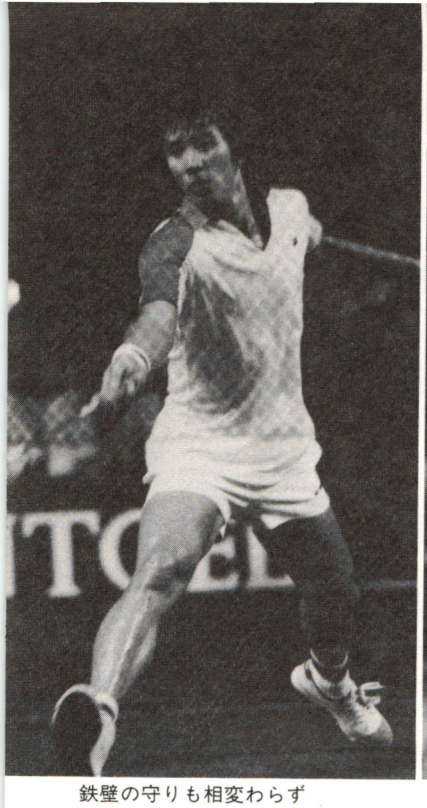
●町田店
☎0427-28-6050
バドミントン・プロショップ

バドミントン7

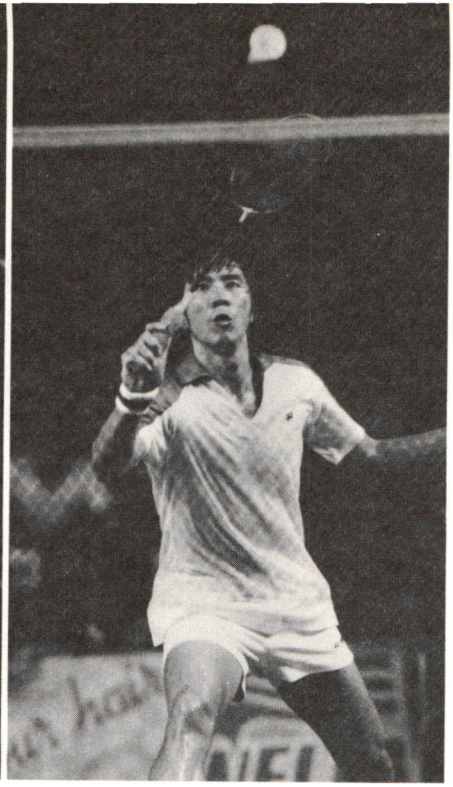
❶ 世界選手権カラー ルディ・ハルトノ	㊱ サントリー女子団体に5連覇達成 河崎ラケットまたしても準優勝
❷ 世界選手権カラー リム・スイ・キン	㊳ 銭谷，巧さもそなえてＶ5 湯木，気魄をこめてＶ8
❸ 世界選手権カラー ルイス・ポンゴ	㊷ 西山ドラエモン完璧!! 山本インサイドワークで2連覇
❻ “神様”ハルトノ　恐るべき復活の日 リム・スイ・キン 2位	㊹ オリジナル・Tシャツのお知らせ 編集室から
❿ ベラワティ強打で“世界一”の座に コーペンはイバナに苦杯	㊻ 世界選手権カラー ハディヤント
⓭ ペリー・ウェブスター欧州に唯一のメダル クリスチャン組若手を退け優勝	㊼ 世界選手権カラー クリスチャン組，カルトノ組
㉒ ナショナルチームはもっと自覚を!! 一貫した指導・強化体制を／小島一平	
㉞ 全日本実業団選手権 ヨネックススポーツ男子団体を制す	

◇表紙デザイン・構成，本文カット＝野間デザイン室

◇今月の表紙＝第2回世界選手権で“復活の日”を迎えたルディ・ハルトノ　　撮影＝赤星三樹



鉄壁の守りも相変わらず



ネットへラッシュするハルトノ



試合後の握手にも王者の風格がただよう

2ND WORLD CHAMPIONSHIP JAKARTA 1980

第2回世界バドミントン選手権大会 5・26～31

"神様"ハルトノ 恐るべき復活の日

リム・スイ・キン2位、プラカシュはベスト8

トマス杯大会、ユーバー杯大会の間に、3年ごとに開かれる世界選手権大会の第2回大会は、バドミントンのメッカ、インドネシア・ジャカルタで5月26日から31日まで開かれた。

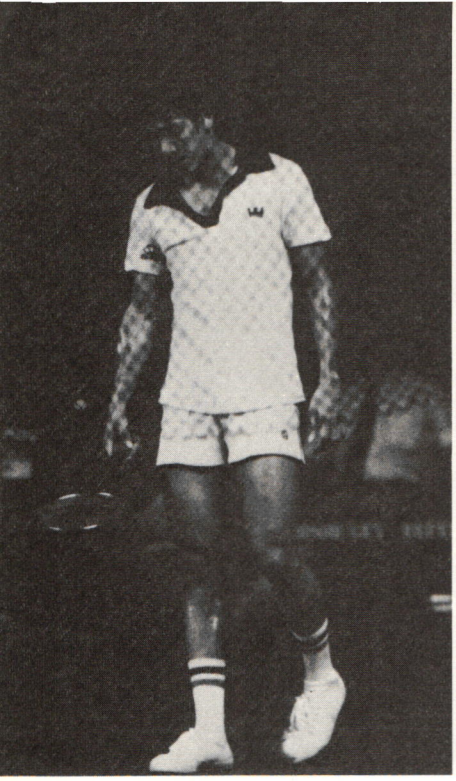
会場となったスナヤン・スポーツセンターには、連日一万人を超すファンがつめかけ、さすが〝メッカ〟の雰囲気となった。

その圧倒的な声援を受けて地元インドネシア勢が活躍、女子ダブルスを除く4種目を制した。とくに男子シングルスで〝神様〟ルディ・ハルトノが見事な復活をみせ、リム・スイ・キンを降して王座についた。

前回大活躍のデンマーク勢は、やはり暑さに弱い北欧選手のウィークポイントをさらけ出し、無冠に終わった。

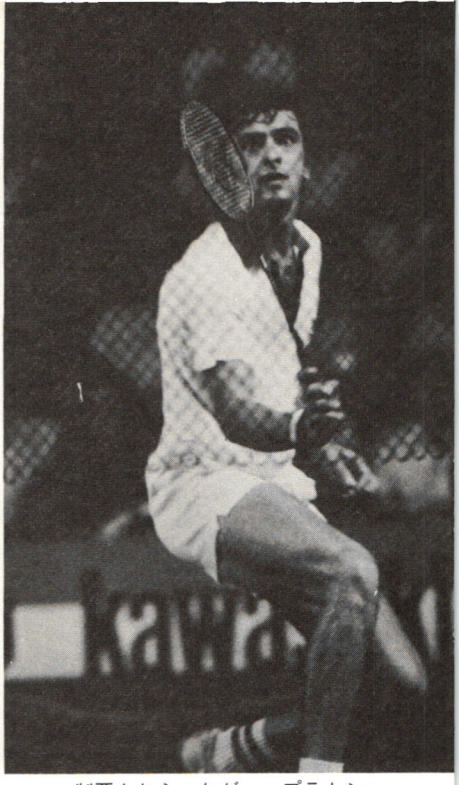
＊

男子シングルスは、全英選手権優勝に輝いたインドの星・パデュコーン・プラカシュ、同大会で2位に甘んじたとはいえ、攻撃力とスピードでは世界で右に出る者のない、人間速射砲リム・スイ・キン、そしてこの大会に



速攻で決勝進出のリム・スイ・キンもハルトノの前に肩をガックリ落とす





制覇をねらったが……プラカシュ

焦点を合わせて着々と調整を進めてきた、ルディ・ハルトノの争いとみられていた。

このトリオに、デンマークの貴公子フレミング・デルフス、モルテン・フロスト・ハンセン、地元インドネシアの羽根打ちサーバー・ルイス・ポンゴらがどうからむかが興味の中心となった。

＊

1回戦で、日本期待の若手、長谷川が早くもデルフスと当たる不運の組合せでストレート負け。テクニックでは素晴しいものを持つ長谷川だが、やはり〝鋼鉄のバックハンド・ハガネの手首〟のデルフスには歯が立たなかった。

またデンマークの暴れん坊、スヴェン・プリもトーマス・キールストロムに一方的に敗れるという波乱があった。

＊

2回戦にはいると、各シード選手が登場し、会場は熱気につつまれた。

パデュコーン・プラカシュ、ルディ・ハルトノ、ルイス・ポンゴ、モルテン・フロスト・ハンセンといった有力選手は順当勝ちを収めたが、フレミング・デルフスはメキシコのロイ・ディアス・ゴンザレスにファイナル・ゲームの末敗れ去った。デルフスは固いレシーブでコートを走り回る若いメキシカンをかわそうとしたが、ゴンザレスは力強い攻撃をたたみかけ、第2、第3ゲームは一方的に押し切った。

リム・スイ・キンもマレーシアのミズブン・シデクに苦戦した。シデクの羽根打ちサーブに悩まされたのだが、さすが黒ヒョウ・キムは、第2ゲーム以降、羽根打ちサーブをスピンで返すなど、みごとに立ち直って3回戦へ進んだ。

日本勢は銭谷がケビン・ジョリーを、土田がマーク・ハリーをそれぞれ3ゲームで降したが、辻はモルテン・フロスト・ハンセンに完敗した。

＊

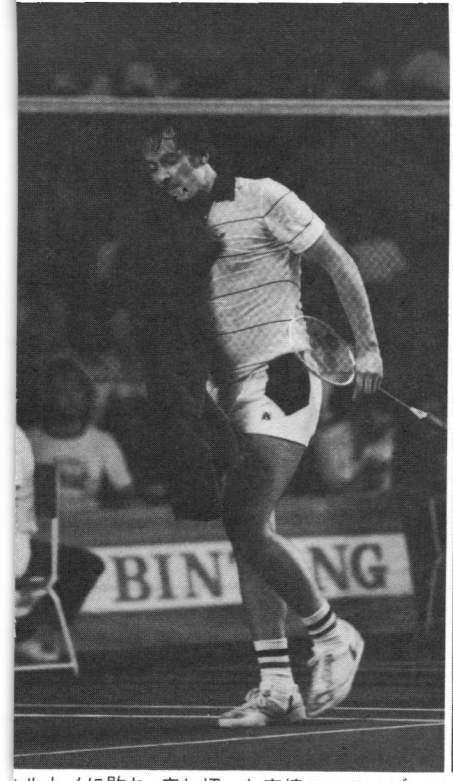
3回戦でルディ・ハルトノはクリス・キナードと対戦した。キナードはハルトノの実妹ウタミ・デビ・クルニヤワンと結婚している義弟である。感情に左右されることなく、ハルトノは2ゲームともに2ポイントに押える圧勝だった。

銭谷は29歳になるハディヤントとフルゲームを戦ったが、終盤は押されっぱなしで惜しい星を落としベスト8入りを逸した。しかし、土田はトーマス・キールストロムに完勝。

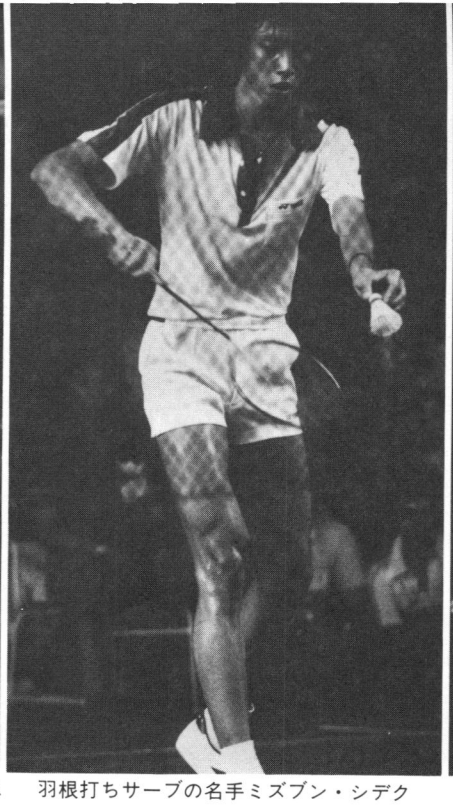
＊

いよいよ準々決勝となると各試合とも激しいゲームが予想されたが、結果は意外にも一方的な内容に終始した。

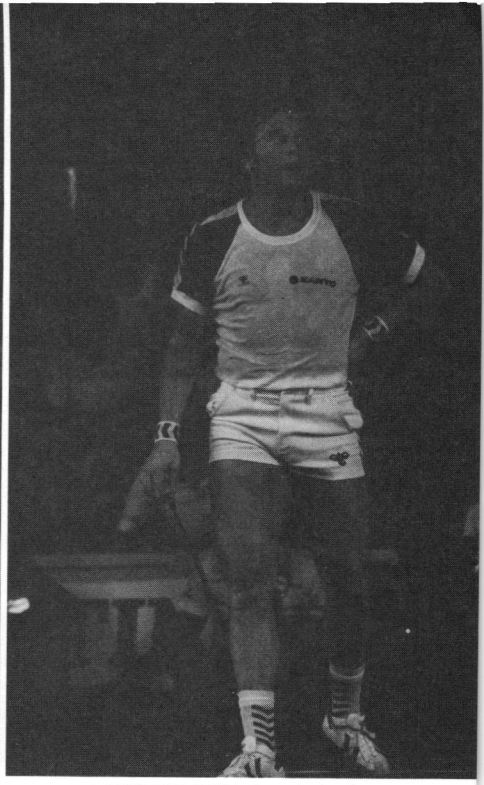
ハルトノは、レイ・スティブンスに対し、1ゲーム目からいっさい手を抜かぬプレーを展開、わずか10分で先取。第2ゲーム7－0とリードされたスティブンスは、絶望的となったのか足の間から返球するなどし、このゲームも9分で終了。汗みずくとなったスティブンスの反撃もハルトノにはまったく通用し



ハルトノに敗れ，疲れ切った表情のスティブンス



羽根打ちサーブの名手ミズブン・シデク



1回戦で姿を消した人気者プリ

なかった。

リム・スイ・キンと対戦した土田も歯が立たず20分で敗退。ルイス・ポンゴもリム・スイ・キンばりのフットワークでハンセンにつけ入るスキを与えず楽勝。

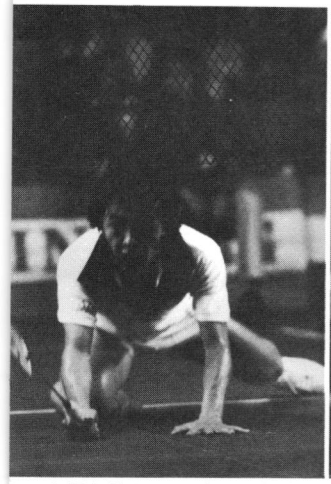
全英チャンピオンのプラカシュは、準決勝でハルトノと対戦すると思われたが、ハディヤントにその希望を断たれた。プレースメントでは世界一のプラカシュだが、ハディヤントの攻撃にペースを乱されストレート負けを喫した。わずかに第2ゲームで1－9から13－14まで追い上げたプレーにその片リンをのぞかせた。

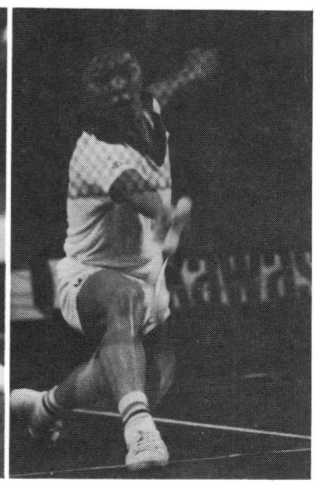
＊

結局、ベスト4はすべて地元インドネシア勢となった。ハルトノは自身あふれるプレーでハディヤントを一蹴。リム・スイ・キンも若さと思い切りの良さで4入りを果たしたポンゴに対し、わずか25分でケリをつけた。

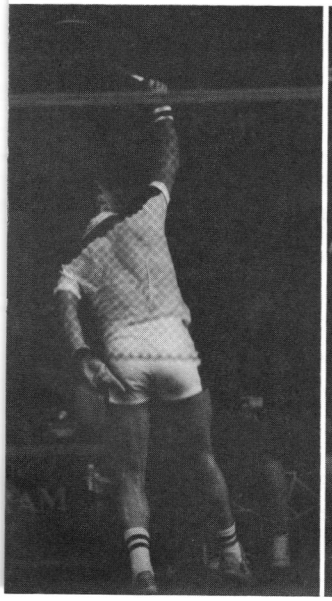
決勝は〝神様〟ハルトノと〝人間速射砲〟リム・スイ・キンの対決となった。キャリアとコーナーワーク、鉄壁のレシーブを誇るハルトノ、スマッシュを中心とする攻撃力とつぶしの早さでは世界一のリム・スイ・キン。どちらが勝つにしても激烈な戦いとなることが予想されたが、ハルトノは、時折り見せる〝神ワザ的プレー〟でリム・スイ・キンの速攻を返し、一方のキムは、決まったと思ったエースをレシーブされ、ガクッときたところを突かれ、2ゲームともに15－9のスコアでハルトノが王座についた。

まさにルディ・ザ・グレーテストの〝復活の日〟であった。

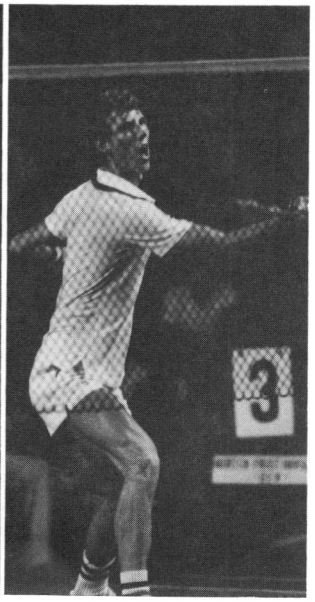




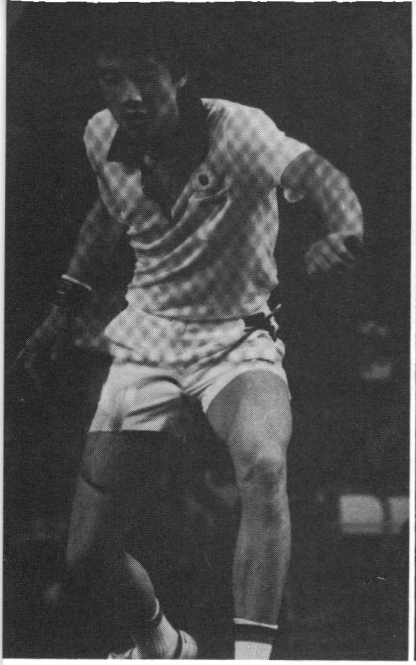
小柄な体をいっぱいに伸ばしてベスト4，ルイス・ポンゴ



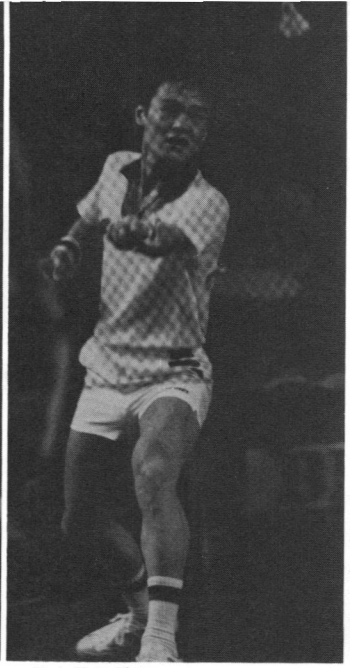
谷に敗れたジョリーのバックハンド



ポンゴに完敗のハンセン



テクニックも通じなかった長谷川

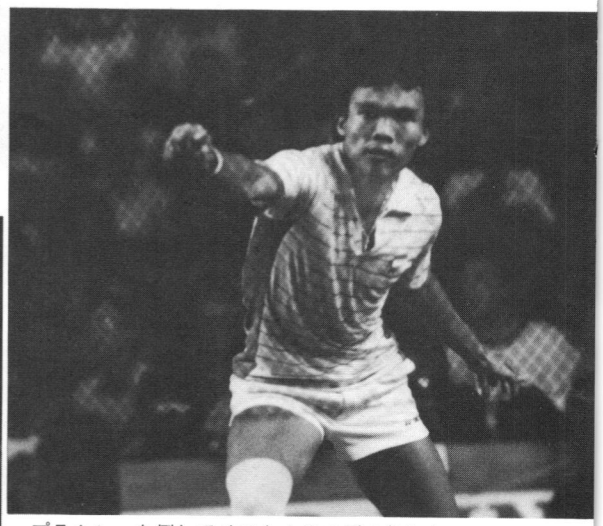


日本男子最高のベスト8，土田

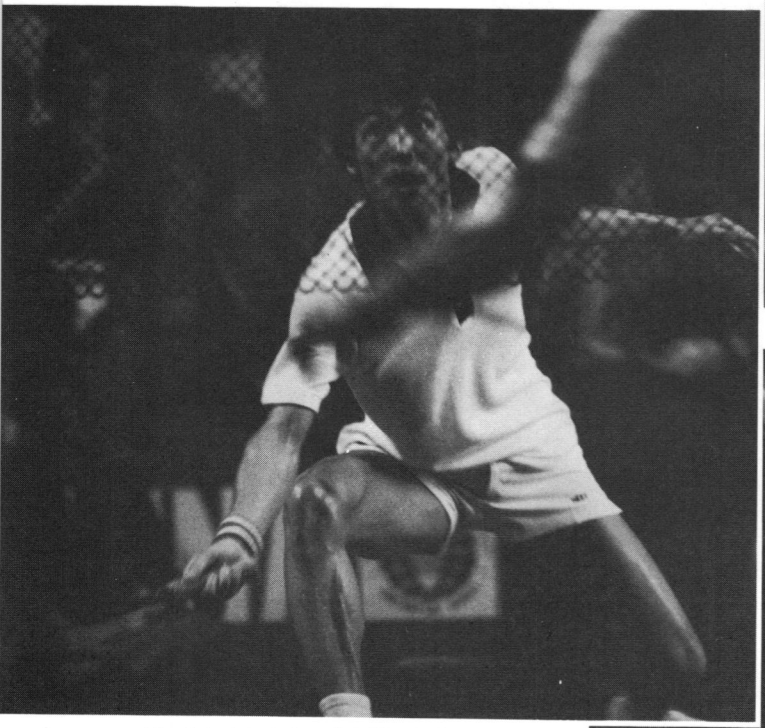
大モテのスペシャル・ドリンク

ヨーロッパの選手にとって、ジャカルタの暑さはことのほかこたえるらしく、全英選手権とは見違えるように疲れ切った表情の選手が多かった。

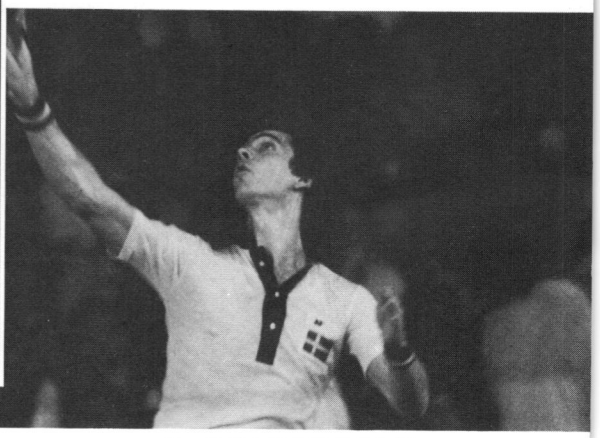
その中で、イングランドのベンチでは、チーム・ドクターのR・ケネディ氏特製のスペシャル・ドリンクで元気をつけていた。味はレモン・ライムだとか。



プラカシュを倒してベスト4のハディヤント

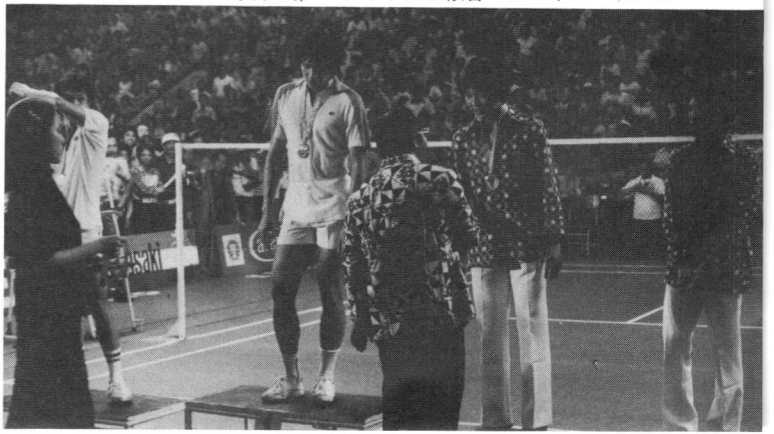


ハディヤントにあと一歩と迫った銭谷



キールストロムはベスト16

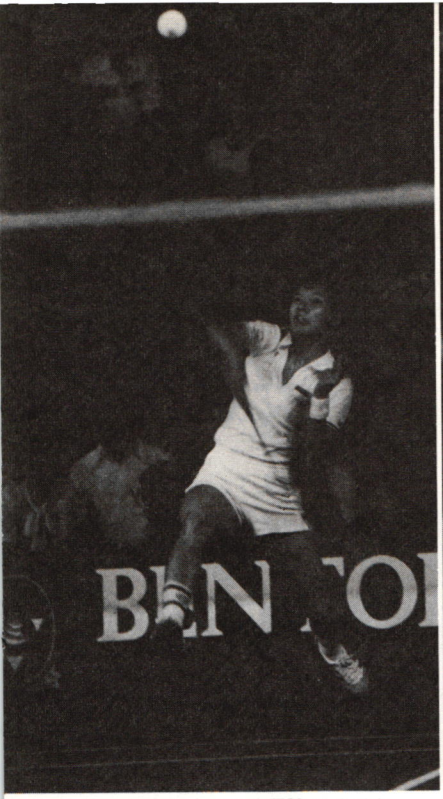
男子シングルス表彰式，バティックが似合いのルイス・ポンゴ



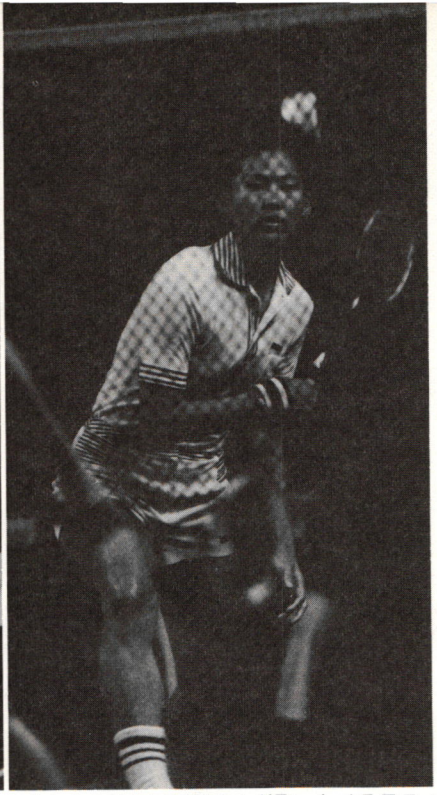
コートサイドの着換えに観衆ビックリ

女子ダブルスで優勝したノラ・ベリーとジェーン・ウエブスターは、ファイナル・ゲームにもつれこむと、コートサイドですばやくシャツを着換えていた。

一万五千を超えるファンは、ビックリするやら大声をはり上げるやら大騒ぎ。



地元の大声援を受けて準優勝のイバナ



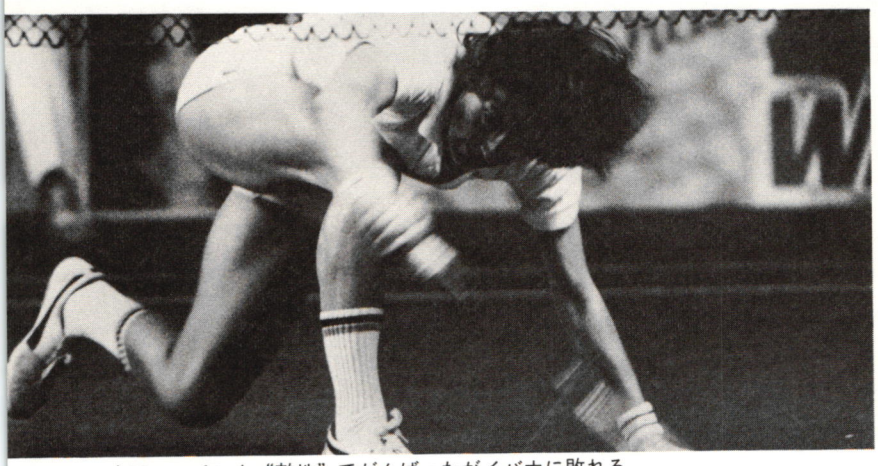
長身からの強打で優勝をもぎ取ったベラワティ

2ND WORLD CHAMPIONSHIP・JAKARTA 1980

コーペンはイバナに苦杯、湯木・近藤もベスト8

ベラワティ強打で〝世界一〟の座に

米倉は信じられぬ初戦負け



女王コーペンも“敵地”でがんばったがイバナに敗れる

女子シングルスは、ジャカルタの暑さと、熱狂的な地元ファンの喧噪に耐えて、リーン・コーペンがタイトルを守るか。

それとも、ベラワティ・ウィハルジョ、イバナ・リー・イン・ホーの地元勢、湯木博恵、米倉よし子、近藤小織の日本勢が、ユーバー杯保持国の面目を保つかが、焦点となった。

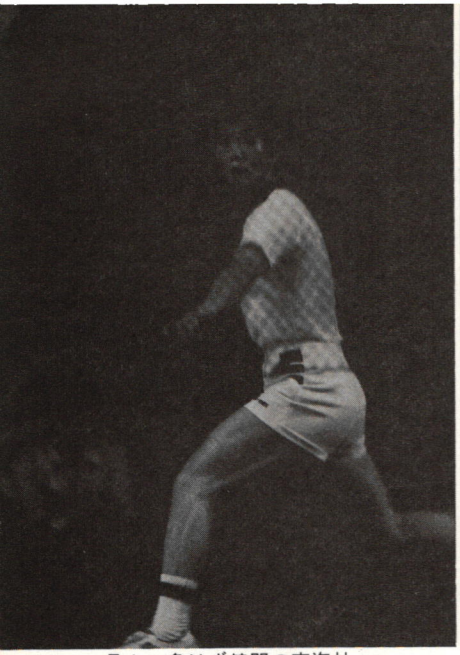
＊

2回戦まではほぼ順当な結果となった。そのなかで、ヨーロッパ選手権を制したスイスの新星・リーサロッティ・ブルーマは2回戦でイバナと対戦した。どこまでイバナに食い下がるか興味が持たれたが、2ゲームを通じて6ポイントを得たにとどまった。

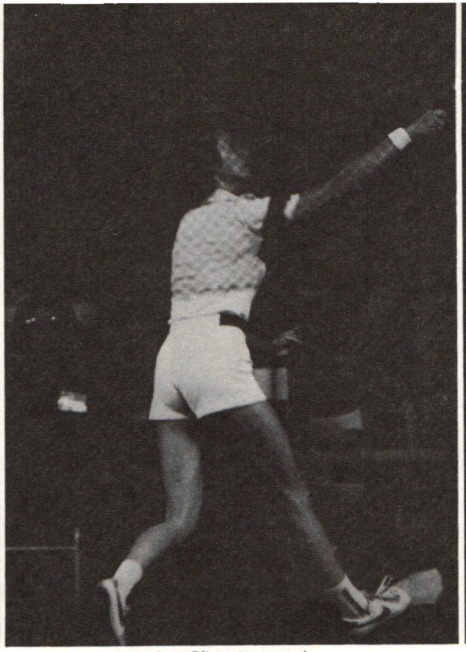
日本が上位入賞を期待した米倉は、コンディショニングに失敗したのか、ウェンディ・カーターとファイナル・ゲームを戦ったが惜敗、早くも姿を消した。東海林はマクドナルドに快勝。

＊

3回戦にはいると強豪同士の激突が相つい



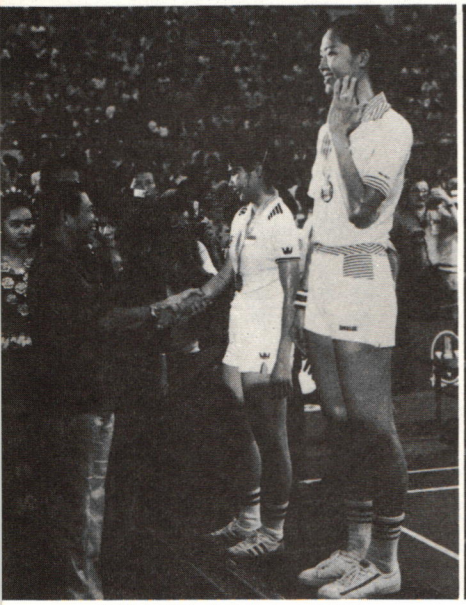
暑さに負けず健闘の東海林



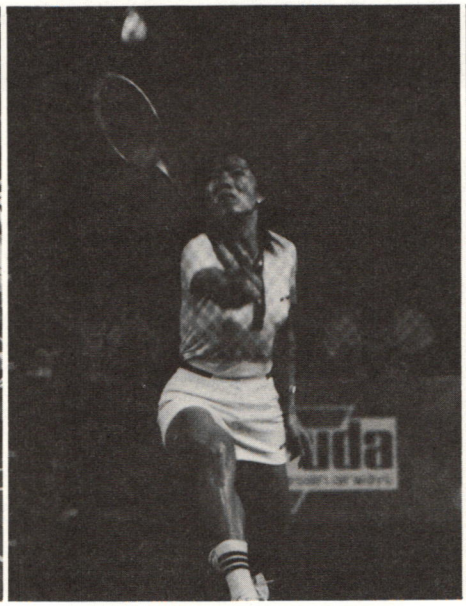
米倉を降したカーター



信じられぬ初戦敗退にガックリの米倉



快勝に顔もほころぶベラワティ



ハルトノの実妹ウタミ・テビもがんばる



久々の大舞台にハッスルのタティ・スミラ

だ。オランダのプリンセス・ヨーケ・バン・ビューセコムとイングランドのカレン・ブリッジはフル・ゲームの大接戦。最近パッとしなかったビューセコムだが、この一戦は彼女けんめいの攻撃が実り、ベスト8へとコマを進めた。

東海林はベラワティの高い攻撃になすすべなく2－11、0－11で完敗した。

日本が望みを託した湯木と近藤はベスト4入りをかけて、それぞれイバナ、コーペンと対戦。キャリアでは圧倒する湯木だが、20歳のイバナは速攻でたたみかけ、わずか25分でケリがついてしまった。近藤もコーペンの確実なレシーブを崩すことができず一方的に敗れ去った。

＊

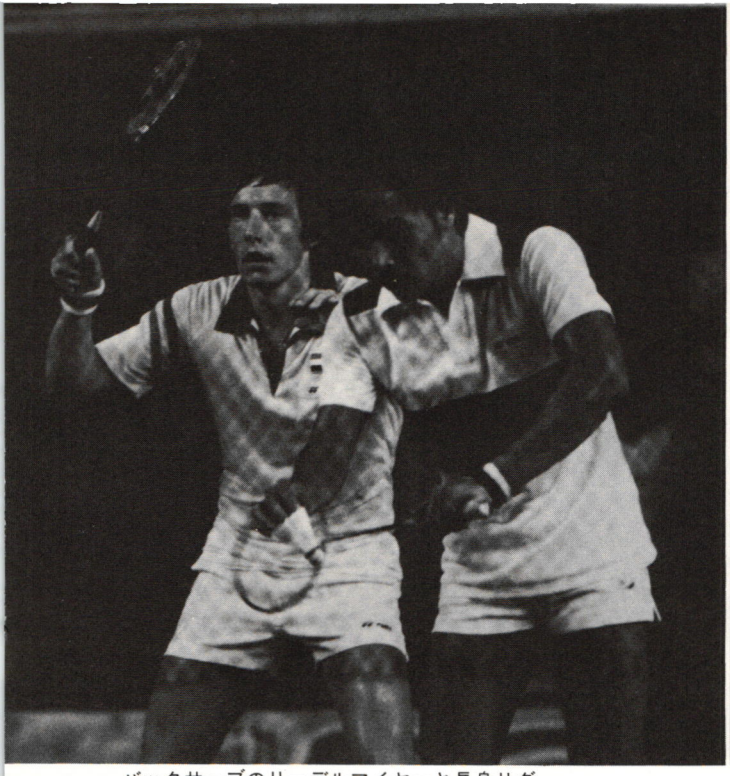
準決勝にイバナ、ベラワティ、タティ・スミラのインドネシア勢とコーペンが残った。

イバナ×コーペン。

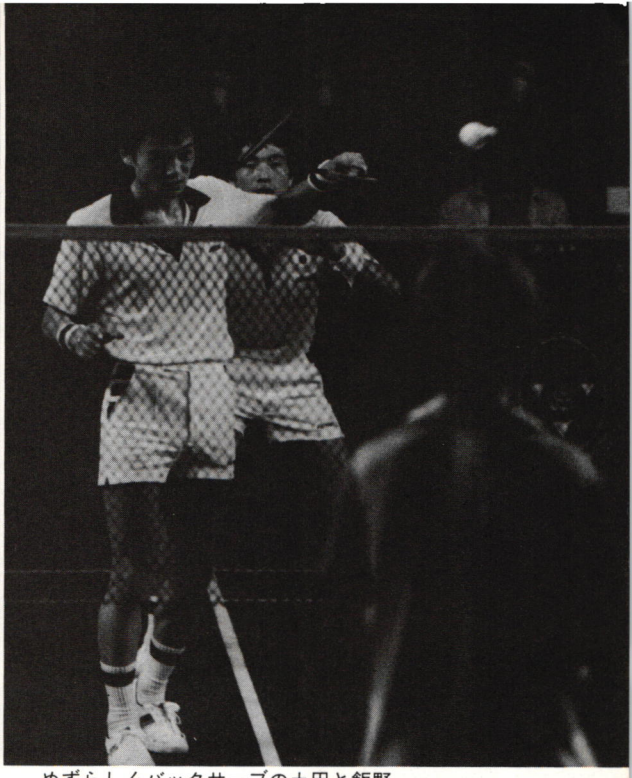
イバナは全英選手権では1－11、1－11で一方的に敗れているが、デンマーク・オープンではコーペンを降しており、熱戦が予想された。

第1ゲーム、お互いに譲らず長いラリーが続いた。30ラリーを超えるものが3回もあったほどである。これによって、さすがのコーペンも疲れ、集中力を乱された。大観衆は一球一球大声を張り上げ、スピーディなイバナを後押しした。セッティングの末12－11で先取するとイバナは、第2ゲーム一気にたたみかけ、7－1とリードした。

コーペンはあらゆるストロークをくり出し



バックサーブのリーデルマイヤーと長身リダー



めずらしくバックサーブの土田と飯野

金メダルを胸に安堵の表情のクリスチャン・チャンドラ

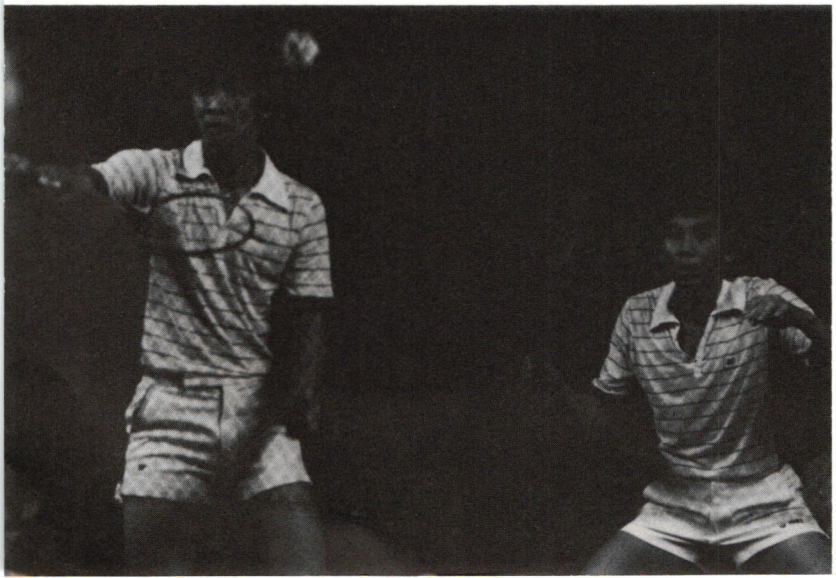


て反撃をはかったが、すでに試合の流れは完全にイバナのものであり、11－2でストレート勝ち、決勝へ進出した。

一方の準決勝、ベラワティ×スミラ戦も熾烈なものとなった。

22歳のベラワティに対し、28歳のファイター、スミラは激しい攻撃を試み、長身ベラワティもたじたじの様相だった。結果的にファイナル・ゲーム11－3でベラワティの勝ちとなったが、ベラワティはいつになく疲れ切った表情をみせていた。

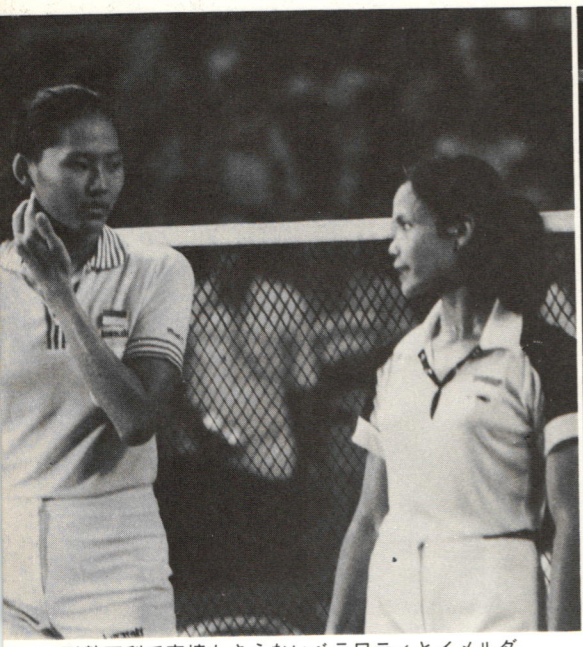
視線とシャトルの方向に注目！カルトノ・ハリヤント



＊

決勝は、イバナにアクシデントでもあったのか、準決勝までですべてを使い果たしたのか、ほとんど無抵抗のまま敗れ去った。

コーペンを倒して、「やった、やった」とばかりに狂喜していた姿と、決勝であっけなく敗れ、観衆からまばらな拍手を受け、肩を落した姿は、あまりにも対照的だった。



形勢不利で表情もさえないベラワティとイメルダ



優勝の瞬間!!ペリーとウェブスター

クリスチャン・チャンドラ組若手を退け優勝

ペリー・ウェブスター欧州に唯一のメダル

混合複もインドネシア制し、地元大歓声

男子ダブルスは、実力ナンバーワンのチュン・チュン、ヨハン・ワジュディ組が不参加。チュン・チュンが背中を痛めたということだが、あのエクストラ・トップギアをもったダブルスを欠いたインドネシアは、クリスチャン・ハディナタ、アディ・チャンドラ組とカルトノ、ハリヤント組にすべてを託した。

飯野・土田組にもチャンスが、と思われたが、1回戦から苦戦の連続。まずステーン・フラッドベルグ、M・F・ハンセン組とフル・ゲーム。2回戦もベント・フローマン、トーマス・キールストロム組とファイナルのセッティングの大接戦。そして準々決勝でクリスチャン・チャンドラ組と対戦した。このカベを破れば優勝へ大きく前進である。しかし、6－15、2－15の一方的内容でベスト8どまりに終わった。

4強は、このクリスチャン・チャンドラ組、カルトノ・ハリヤント組、ステーン・スコブガード、フレミング・デルフス組、そしてマレーシアの兄弟ペア、ミズブン・シデク、ジャライニ・シデク組となった。

シデク兄弟は、準々決勝でスティブンス・トレジェット組にストレート勝ちを収めたが、イングランドペアは、全英決勝でチュン・チュン、ワジュディ組にあと一歩まで迫っている二人である。よもやストレートであっさりと敗れるとは思えなかった。

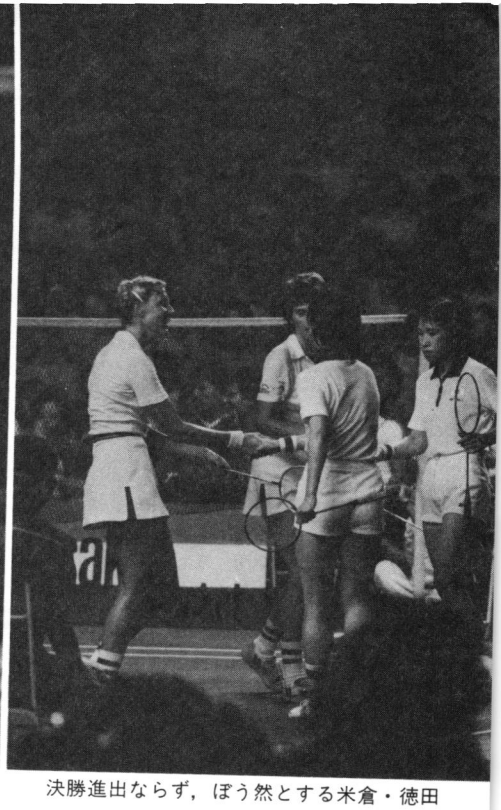
シデク兄弟の勝因は、強烈なスピンのきいた羽根打ちサーブである。シャトルを逆に持ってこすり上げるこのサーブは、IBFの総会でもフォルトではないかと問題になったものだが、イングランドペアは、プッシュすることができず、ネットにおきにいけばポップアップし、どうしようもないという状態だった。

しかし、準決勝のクリスチャン・チャンドラ組は、羽根打ちサーブに対する備え十分で15－9、15－10でシデク兄弟を一蹴した。

一方の準決勝、スコブガード・デルフス組×カルトノ・ハリヤント組は、第1ゲーム途中で長いやりとりの末、0－9とインドネシア組にリードされたところで、デンマークペアは追い上げもできず7－15で第2ゲームへ。第2ゲームも同じような展開で、0－7となり、汗にまみれ、まるで夢にうなされるよう



振り子サービスをみせるブリッジとサットン



決勝進出ならず，ぼう然とする米倉・徳田



余裕しゃくしゃくのクリスチャン・イメルダ



気迫でメダルを奪取したペリーとウェブスター

な状態で完敗した。

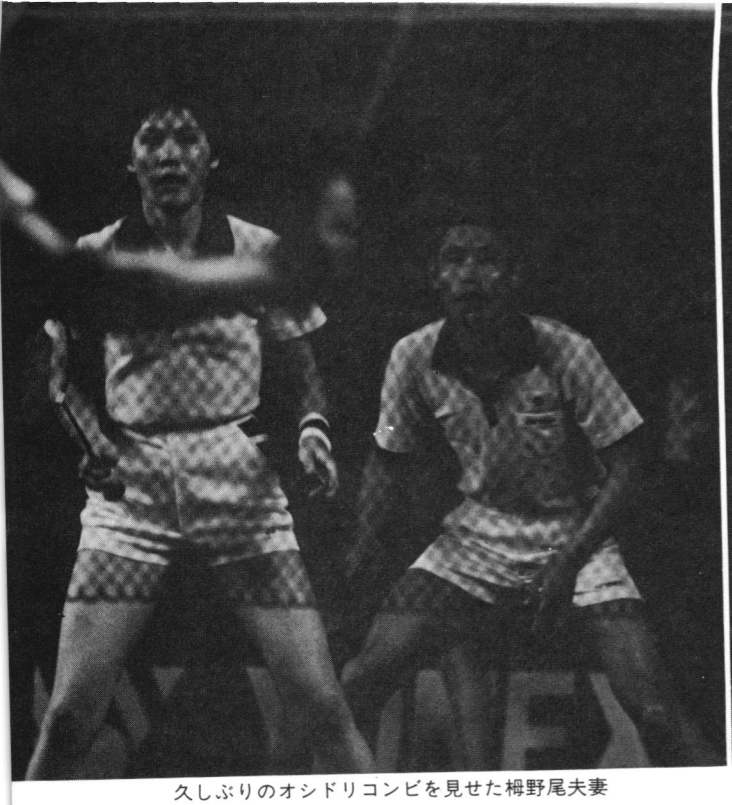
決勝はインドネシア同士となり、ともに世界一をめざし、迫力あるプレーを展開した。第1ゲームはクリスチャン組に当たりが出ず、カルトノ組が楽に先取。しかし、全英選手権を2度制しているベテランペアは、じわじわと自分たちのペースをつかむや、カルトノ、ハリヤントの弱点を的確に突き、チャンドラの猛攻も復活し、第2、第3ゲームを連取、みごとに世界の王座を手に入れた。

*

ホテルのプールはビキニの花ざかり

宿舎となったインターコンチネンタル・ホテルはインドネシアでは最高の設備を誇るもの。試合は夕方6時から深夜に及ぶため、疲れをいやすにはホテルのプールに飛び込むのがいちばん。

プールサイドには南国特有の草木が植えられ、ヨーロッパ勢のサットン、ブルーマ、ペリー、ラーセンらが、ミスもミセスもビキニ姿を披露していた。



久しぶりのオシドリコンビを見せた梅野尾夫妻



1プラス1イコール2とはならず，苦戦の銭谷・湯木

女子ダブルスは、イングランドのギリアン・ギルクスがメンバーからもれたため、日本としてはタイトルへの最短距離と思われた。米倉・徳田、近藤・高田の実績からみて、なんとかカップを持ち帰ってほしいところであった。

その期待をになって、米倉・高田がベスト4へ残った。準決勝の相手はイングランドのノラ・ペリー、ジェーン・ウェブスター組。ギルクスが抜けている分だけ楽かと思われたが、ウェブスターが自信あふれるプレーを展開、ペリーは正確なコーナーワークと迫力あるスマッシュで高い位置から攻めつけ、ファイナル・ゲーム6―15で敗れ、決勝進出はならなかった。

地元イメルダ・ウィジョノ、ベラワティ・ウィハルジョ組対ノラ・ペリー、ジェーン・ウェブスター組の決勝。

地の利（風向き、大観衆の耳をつんざく応援）からみて、インドネシア組勝利が大方の予想だった。

しかし、なんとしてもタイトルを奪取するという意気込みをみせるイングランド・ペアの迫力はすさまじかった。中間ボールを前衛から飛びついて〝殺す〟ペリー、汗にまみれながら高い位置からの攻撃の手をゆるめないウェブスター。

この気迫に押されたのか、イメルダは信じられぬミスを連発、サーブの正確さでは一、二を争う彼女だが、そのサーブもネットにひっかけてしまう。ベラワティの攻撃も雑になり、なんとストレートでペリー、ウェブスターが優勝した。

ラリー中といわず、サービス時といわず、大声をはりあげ、足をふみ鳴らす地元ファンのプレッシャーをはねのけた、ノラとジェーンに脱帽といったところ。

＊

混合ダブルスには、梅野尾昌一・悦子夫妻と、銭谷・湯木組が参加したが、ともに1回戦で惜敗。

上位は予想どおりのペアで占められ、決勝はクリスチャン・イメルダ組×トレジェット・ペリー組となった。

昨年はクリスチャン組が、今年はトレジェット組がそれぞれ全英選手権決勝で勝っており、いわば因縁の対決。

第1ゲーム、イメルダ、ペリーともに巧みなネットプレーをみせ前衛での勝負は互角。しかし、クリスチャンがサイドへぎりぎりのスマッシュを決めるのに対し、トレジェットはミスがやや多い。12―9とインドネシア組リードのとき、サーブミスもあって13―10と差を広げ、さらにセンターへのプッシュを決めるなどして、15―12で先取。わずか16分でチェンジエンドである。

第2ゲームは、さらにトレジェットにミスが目立ち、大きくサイドを割るスマッシュミスなどで、12―1と大きくクリスチャン組が引き離した。14―3からイングランドペアもサービスを奪い返し反撃を試みたが、結局15―4でクリスチャンはダブルス2個目のタイトルを手にした。

暑さと耳をろうする歓声につつまれた6日間だった。

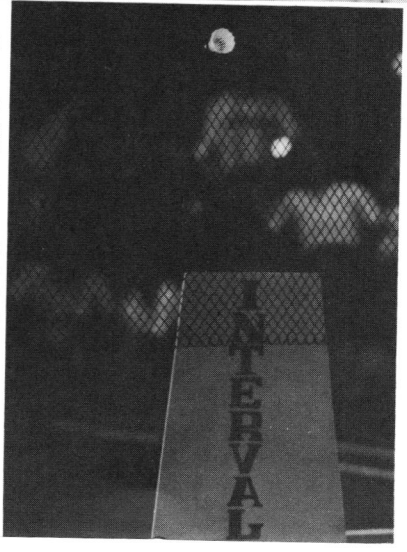
世界選手権大会にひろう



プリの愛嬢を中央に左・ラーセン，右・プリ夫人



連日１万人を超すファンがつめかけ，会場は大騒ぎ



コート中央のインターバルの掲示。
シャトルはネットに突きささったまま



ガルーダ航空機内の「世界選手権公用機」掲示



今大会最長身のカナダのジョンソンと並んだ日体大・権藤君



ハンセンを破って場内を肩車されて回るルイス・ポンゴ

◎男子シングルス◎記録

▽一回戦

フラッドベルグ(D) 2 15 15 / トライオン(C) 0 15 7 18 16
ハディヤント(I) 2 15 15 / R・シデク(M) 0 15 1 10 0
鐘(台) 2 15 15 4 15 / パル(H) 1 15 2 3 15
銭谷 2 15 15 / ベッセル(G) 0 15 8 5
ジョリー(E) 2 17 15 6 / ジョンソン(S) 0 14 6 0
キナード(U) 2 15 17 15 17 / 陳(台) 1 15 2 16 17 0
デルフス(D) 2 15 15 / 長谷川 0 15 2 10
ゴンザレス(Mx) 2 15 15 / シン(印) 0 15 13 9 0
スティブンス(E) 2 15 15 0 / ジョンソン(C) 0 15 6 0
カールソン(S) 2 15 15 / トラバース(Sc) 0 15 1 8 0
モディ(I) 2 15 15 / スー・スウィー・レオン(M) 0 15 6 10 0
フローマン(S) 2 15 15 / ベルデン(Y) 0 15 7 10 0
ジリランド(Sc) 2 15 15 / ロスパラスエ(Mx) 0 15 2 11 0
ポンゴ(I) 2 15 15 / クーパー(A) 0 15 1 6 0

リダー(H) 2 15 15 / 廂(台) 0 15 3 11 0
ハリー(A) 2 15 15 / 列(台) 0 15 10 4 0
土田 2 15 15 / ジャラミロ(Mx) 0 15 9 8 0
ガングリ(印) 2 / バデリー(E) 1 15 10 15 7
キールストロム(S) 2 15 15 / プリ(D) 0 15 6 9 0
▽二回戦
プラカシュ(印) 2 15 15 / セルム(Nz) 0 15 3 3 0
フラッドベルグ 2 15 15 / コン(A) 0 15 5 4 0
ハディヤント 2 15 15 / 鐘 0 15 0 3 0
銭谷 2 / ジョリー 1 15 7 15 9 15 7
ハルトノ(I) 2 15 15 / J・シデク(M) 0 15 7 9 0
キナード 2 15 15 / コプリフセック(Y) 0 15 1 8 0
ゴンザレス 2 / デルフス 1 15 1 6 15 12 15
スティブンス 2 / カールソン 0 15 10 18 13 0
モディ 2 15 15 / フローマン 0 15 1 1 0
ポンゴ 2 15 15 / ジリランド 0 15 1 0 0
リダー 2 15 15 / チック(C) 0 15 4 5 0
ハンセン(D) 2 15 15 / 辻 0 15 1 3 0
土田 2 15 15 10 / ハリー 1 15 8 9 15
キールストロム 2 / ガングリ 1 15 7 14 9 15
ウイルソン(Nz) 2 15 15 / マッキー(C) 0 15 8 2 0
リム・スイ・キン(I) 2 / M・シデク(M) 1 15 4 3 15 17
▽三回戦
プラカシュ 2 15 15 / フラッドベルグ 0 15 5 11 0
ハディヤント 2 / 銭谷 1 15 3 15 7
ハルトノ 2 15 15 / キナード 0 15 2 2 0
スティブンス 2 / ゴンザレス 0 15 0 6 0
ポンゴ 2 15 15 / モディ 0 15 5 3 0
ハンセン 2 15 17 / リダー 0 15 3 14 0
土田 2 15 18 / キールストロム 0 15 8 16 0



リム・スイ・キン 2 15 15 / ウイルソン 0 15 2 1 0
▽準々決勝
ハディヤント 2 15 15 / プラカシュ 0 15 13 11 0
ハルトノ 2 15 15 / スティブンス 0 15 3 1 0
ポンゴ 2 15 15 / ハンセン 0 15 6 11 0
リム・スイ・キン 2 15 15 / 土田 0 15 2 1 0
▽準決勝
ハルトノ 2 15 15 / ハディヤント 0 15 8 6 0
リム・スイ・キン 2 15 15 / ポンゴ 0 15 3 3 0
▽決勝
ハルトノ 2 15 15 / リム・スイ・キン 0 15 9 9 0

◎女子シングルス◎記録

▽一回戦
ソレセン(ノ) 2 12 12 / ファラデー(C) 0 12 9 9 0
チャン・ソー・ガン(I) 2 11 11 / ホバ(A) 0 11 3 1 0
ヤングバーグ(C) 2 11 11 / スワビー(A) 0 11 4 3 0
リダー(H) 2 11 11 / チペ・ゴク・ウィー(M) 0 11 7 5 0
スミラ(I) 2 11 11 / ダリー(A) 0 11 7 6 0
ギア(I) 2 11 11 / チャップマン(E) 0 11 8 4 0
クロータ(C) 2 12 11 / カオ・ムー・レン(M) 0 11 3 0
▽二回戦
コーペン(D) 2 11 11 / カテリナ・テ(M) 0 11 0 2 0
ウェブスター 2 / キナード(I) 1 11 3 11 7 11 12 11
近藤 2 11 11 / 頼(台) 0 11 4 3 0
チャン・ソー・ガン 2 / ソレセン 1 11 2 11 6 11 4
イバナ(I) 2 11 11 / ブルーマ(Sw) 0 11 5 1 0
リードビーター(E) 2 11 12 / 黄(台) 0 11 4 9 0

湯木 2 11 11 11 8 7 0 ヤングバーグ
ヤングバーグ 2 11 11 5 11 0 リードビーター
イナバ 2 11 11 6 11 6 0 チャン・ソー・ガン
近藤 2 11 11 6 6 6 0 ウェブスター
コーペン 2 11 11 6 2 0
▽3回戦
ベラワティ（I） 2 11 11 2 11 1 0 康（台）
東海林 2 11 11 9 5 0 マクドナルド（A）
ブリッジ（E） 2 11 11 5 6 11 7 1 ニールセン（D）
カーター（C） 2 11 6 7 11 8 1 米倉
ビューセコム（H） 2 11 11 5 3 0 クローター
陳（台） 2 11 11 2 3 0 チャイ・リーン（M）
レオン・
ト（H） 0 デ・コー
ラーセン（D） 2 11 11 5 8 0
スミラ 2 11 11 6 4 0 ギア
ヤングバーグ 2 12 11 11 8 0 リダー
湯木 2 11 11 1 3 0 クルカルニ（I）

スミラ 2 11 12 3 10 0 ラーセン
カーター 2 12 11 4 11 12 1 陳（台）
ビューセコム 2 11 2 11 7 11 4 1 ブリッジ
ベラワティ 2 11 11 0 2 0 東海林
▽準々決勝
イバナ 2 11 11 2 3 0 湯木
コーペン 2 11 11 2 4 0 近藤
スミラ 2 11 11 9 7 0 カーター
ベラワティ 2 11 11 1 6 0 ビューセコム
▽準決勝
イバナ 2 11 12 2 11 0 コーペン
ベラワティ 2 11 8 11 11 4 1 スミラ
▽決勝
ベラワティ 2 11 11 3 1 0 イバナ

▽1回戦
ジャラミロ・パラスエロス（Mx） 2 15 15 4 2 0 ミューム・ウースアセル（N）
R・シデク、オン（M） 2 15 15 4 8 0 ベセル（A・G）
カールソン・ノーディン 2 15 15 12 8 0 トライオン・チック（C）
ウイルソン・バンセルム（Nz） 2 15 15 11 4 0 廂鐘（台湾）
タルボット・ジョー 2 15 15 3 7 0 池田尾崎
フローマン・キールストローム（Swe） 2 15 15 8 2 0 林列（台）
飯野 土田 2 15 11 15 10 15 9 1 フラッドベルグ・ハンセン（D）
コン・クーパー（A） 2 15 15 5 3 0 ベルテン・コブリフセック（Y）

J・シデク、M・シデク（M） 2 18 15 16 8 0 ガングリ・シン（印）
▽2回戦
スコブガード・デルフス 2 17 15 14 11 0 ジリランバース（Sc）
R・シデク、オン 2 15 15 7 7 0 ジャラミロ・パラスエロス
カルトノ・ハリヤント（I） 2 18 15 13 3 0 カールソン・ノーディン
タルボット・ジョー 2 15 18 8 15 0 ウイルソン・バンセルム
飯野 土田 2 17 10 15 15 15 9 1 フローマン・キールストローム
チャンドラ・クリスチャン（I） 2 15 15 3 1 0 カンチャナラフィ・マッキー（C）
J・シデク、M・シデク 2 15 15 7 4 0 コン・クーパー
スティブンス・トレジェット（E） 2 15 18 8 9 16 15 1 リーデルマイヤー（H）
▽準々決勝



スコブガード・デルフス 2 15 11 15 9 1 R・シデク、オン
カルトノ・ハリヤント 2 15 15 2 1 0 タルボット・ジョリー
チャンドラ・クリスチャン 2 15 15 2 6 0 飯野 土田
J・シデク、M・シデク 2 15 15 11 9 0 スティブンス・トレジェット
▽準決勝
カルトノ・ハリヤント 2 15 15 7 7 0 スコブガード・デルフス
チャンドラ・クリスチャン 2 15 15 10 9 0 J・シデク、M・シデク
▽決勝
チャンドラ・クリスチャン 2 15 15 5 7 5 15 1 カルトノ・ハリヤント

◎女子ダブルス◎記録

▽1回戦

ウィジャスタティ・ダマヤンティ(I) 2(15-15-6-15-15-8) 0 ラーセン・ニールセン(D)

スワビー・ホハ(A) 2(15-15-15-12-12-12) 0 テ・コウテ・コウ(M)

▽2回戦

米倉 徳田 2(15-15-9-11-15-0) 0 ヤングバーグ・バックハウス(C)

陳 黄(台) 2(15-15-6-8-0) 0 マクドナルド・ダリー(A)

ペリー・ウェブス 2(15-15-8-2-0) 0 チー・レオン(M)

ウィジャスタティ・ダマヤンティ 2(15-15-10-10-0) 0 ギア・クルカルニ(I)

ブリッジ・サット 2(15-15-6-3-0) 0 テ・コウン(E)

近藤 高田 2(15-15-6-3-0) 0 ビューセコム・リーダー(H)

ファラデー・クローター(C) 2(15-11-15-12-1) 1 康林(台)

イメルダ・ベラワティ(I) 2(15-15-7-7-0) 0 ソレセン・スコブガード(S)

▽準々決勝

米倉 徳田 2(15-15-5-3-0) 0 陳 黄

ペリー・ウェブス 2(15-15-10-5-9-15-1) 1 ウィジャスタティ・ダマヤンティ

ブリッジ・サット 2(15-11-9-15-8-1) 1 近藤 高田

イメルダ・ベラワティ 2(15-15-2-3-0) 0 ファラデー・クローター

▽準決勝

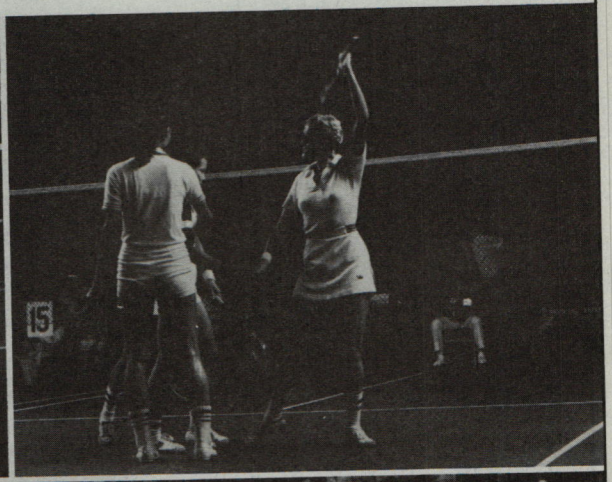
ペリー・ウェブス 2(15-15-6-17-15-12-1) 1 米倉 徳田

イメルダ・ベラワティ 2(15-15-4-10-12-15-1) 1 ブリッジ・サットン

▽決勝

ペリー・ウェブス 2(15-15-3-12-0) 0 イメルダ・ベラワティ









◎混合ダブルス◎記録

▽1回戦

トラバース・ブル（Sw）
2 15 15
4 11
0
コブガーマ（D）

ハディウイボオ・ダマヤンティ（I）
2 15 15 8
7 12 15
1
銭谷 湯木

ジリランド・サッシン（E）
2 15 15
1 1
0
クルカルニ（印）

カンチャナラフィ・カーター（C）
2 15 15
8 13
0
クーパー・ホバ（E）

フラッドベルグ・ニールセン（D）
2 15 11 15
10 15 10
1
バッドリー・ブリッジ（E）

リダー（H）
2 15 18
6 17
0
ガングリ・ギア（印）

ジョンソン・バックハウス（C）
2 15 16 15 2
7 17
1
ハリー・マクドナルド（A）

エルタナト、チャン・ソー（I）
2 15 15
5 2
0
ウイルソン・ダリー（A）

コン・スワビー（A）
2 15 15
8 8
0
ジョンソン・ソレセン（Sw・N）

▽2回戦

タルボット・チャップマン（E）
2 15 11 15 10
9 15
1
栂野尾 栂野尾

トレジェット・ペリー（H）
2 15 15
1 0
0
パル・デコート

ハディウイボオ・ダマヤンティ
2 15 15
8 2
0
トラバース・ブルーマ

カルトノ・ウィジャスタティ（I）
2 15 17 15
10 16 17
1
ジリランド・サットン

フラッドベルグ・ニールセン
2 15 15
4 8
0
カンチャナラフィ・カーター

ジョンソン・バックハウス
2 15 15 14
8 9 17
1
リダー リダー

スコブガード・コーペン（D）
2 15 15 15
13 5 18
1
エルタナト、チャン・ソー・ガン

タルボット・チャップマン
2 15 15
2 2
0
コン・スワビー

クリスチャン・イメルダ（I）
2 15 15
8 7
0
リーダー マイヤー
ビューセコム（H）

▽準々決勝

トレジェット・ペリー
2 15 15
10 6
0
ハディウイボオ・ダマヤンティ

フラッドベルグ・ニールセン
2 15 15 5
9 4 15
1
カルトノ・ウィジャスタティ

スコブガード・コーペン
2 15 15
5 4
0
ジョンソン・バックハウス

クリスチャン・イメルダ
2 15 15
6 5
0
タルボット・チャップマン

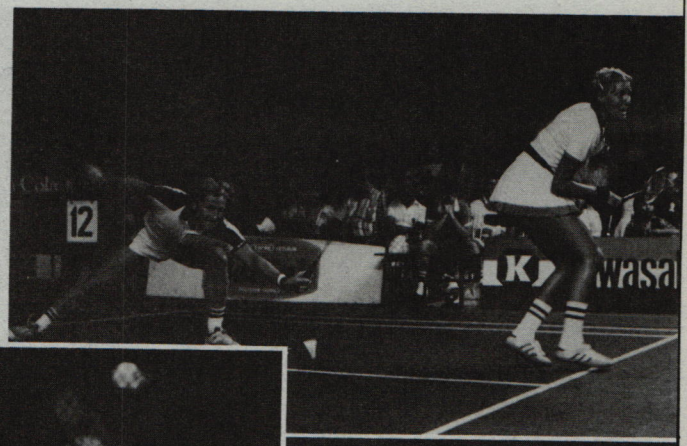
▽準決勝

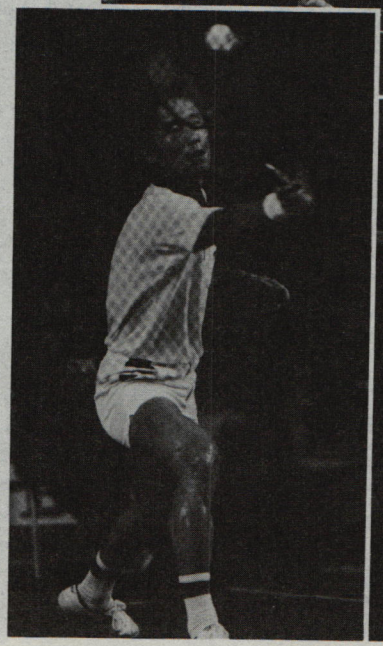
トレジェット・ペリー
2 17 15
14 8
0
フラッドベルグ・ニールセン

クリスチャン・イメルダ
2 15 15
6 11
0
スコブガード・コーペン

▽決勝

クリスチャン・イメルダ
2 15 15
4 12
0
トレジェット・ペリー







※国名略示／D＝デンマーク、C＝カナダ、I＝インドネシア、M＝マレーシア、台＝台湾、H＝オランダ、G＝西ドイツ、E＝イングランド、S＝スウェーデン、U＝アメリカ、Mx＝メキシコ、印＝インド、Sc＝スコットランド、Y＝ユーゴスラビア、A＝オーストラリア、Nz＝ニュージーランド、N＝ノルウェー、Sw＝スイス



いま、鮮烈のプロショップ

RACKETSHOP

Motomachi

ラケットショップ元町

◉横浜 Tel：5F/045-651-2020・045-662-9857 4F/045-662-7133◉渋谷Tel:03-400-7390◉池袋 Tel:03-988-0215◉吉祥寺Tel:0422-21-7890◉藤沢Tel:0466-26-2552◉町田Tel:0427-28-6050

おなじみ 年に一度の 謝恩セール。

特別

9月23日(火)～9月28日(日)

※銀座店では謝恩セールを実施いたしません。



★超特価大奉仕バーゲン・コーナー!

(横浜店は9/23～25日までスカイビル6Fで実施)

値段を思いっきり安くしてご奉仕しようというのがこのコーナー。ラケット・シューズ、秋物を中心としたウエアなどテニス・バドミントン用品がズラリ。値段を見てびっくりの超特価ばかり!

※なお、限定奉仕のため品切れが考えられますのでその場合はご諒承ください。

★お楽しみスピードくじ!

空くじなし、何が当るかお楽しみ。期間中にお1人5,000円以上お買い上げの方に1回スピードくじのチャンスがあります!ビッグな特賞はテニスもできる品川プリンスホテルにペアで50組を1泊ご招待!特賞以外にもすてきな賞品がズラリ。必ず当ります。

※なお、お買い上げ金額はバーゲン品を対象外とさせていただきます。

★特別割引が他にもドッサリ!

以前から欲しいと思っていた品や、まとめ買いをしたい品など……日ごろの夢がかないます。感謝の心をこめてお届けする一流品の数々を特別割引!ウインザーならではの品揃えでお待ちしています。

※なお、この特別割引品は期間中に限らせていただきます。

日本最大の テニス・バド専門店

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

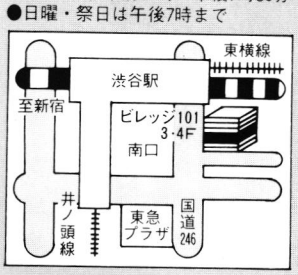
毎月曜日定休・祝祭日を除く

渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3·4階) TEL03-464-9251～2〒150

●営業時間/午前10時～午後7時30分

●日曜・祭日は午後7時まで



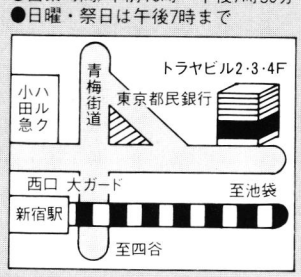
毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2·3·4階) TEL03-363-6848〒160

●営業時間/午前10時～午後7時30分

●日曜・祭日は午後7時まで



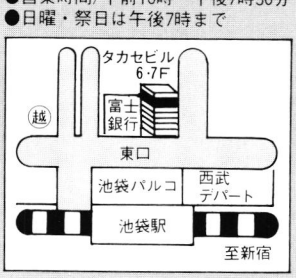
毎月曜日定休・祝祭日を除く

池袋店

東京都豊島区東池袋1-1-4(タカセビル6·7階) TEL03-989-0401〒170

●営業時間/午前10時～午後7時30分

●日曜・祭日は午後7時まで



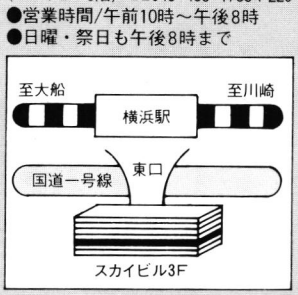
年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口(スカイビル3階)TEL045-453-1785〒220

●営業時間/午前10時～午後8時

●日曜・祭日も午後8時まで



あなたはもっと強くなるはずだ。

●もっとコントロールに自信をつけたくありませんか●打球にもっとパワーとスピードが欲しいと思いませんか●明日からでも、より鋭いスマッシュが打てるようになりたいと願っていませんか●ネットぎわの多彩なプレーができるテクニシャンになりたいと思いませんか●ガットを経済的に使いませんか……それから良いラケットを使っているのに、どうも謳い文句とはちがうと感じていませんか●ラケットがダメだとヤツ当りすることはありませんか●一度GOSENのガットをお試しください。きっと、あなたのバドミントンが大きく変わることでしょう。GOSENのガットは、ナイロンの素材特性を生かしきった独自の技術が生きています。

日本バドミントン協会推奨

■1900C／Wintex CARBON
ウインテックス・カーボン／￥800
破壊力のある豪快なショット。

■1900／Wintex
ウインテックス／￥800
微妙なテクニックが生きる
シャープな反発力。

■1900W／Wintex WIRE
ウインテックス・ワイヤー／￥900
特殊油入り中空糸とワイヤー巻付けの
技術が生んだ驚異の瞬発力。

■1090／HY-O-SHEEP
ハイ・オー・シープ／￥700
ハードなプレーにも
ベストコンディションをキープ。

■1060DX／HY-SHEEP DELUXE
ハイ・シープ・デラックス／￥550
スピードと打球感の良さが
特徴のトーナメント用。

■1060SP／HY-SHEEP SUPER
ハイ・シープ・スーパー／￥550
球ばなれの良さ、
シャープな打球感。

■1060／HY-SHEEP
ハイ・シープ／￥450
初心者から選手層まで幅広い人気のスタンダードタイプ。



王者ハルトノも
愛用する
ゴーセンのガット。

Rudy Hartono

GOSEN

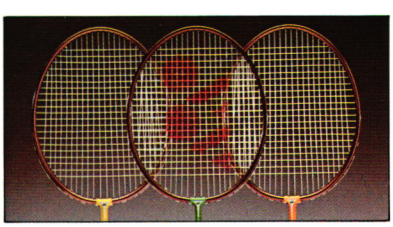
■最近、ハイ・シープと称して類似品が出まわっております。ハイ・シープ®とはゴーセンだけのオリジナルブランド名です。
■お求めの際はゴーセンとご指名ください。ガットにくっきり「GOSEN」の5文字が目じるしです。

GOSEN

株式会社 ゴーセン
本　　社●〒540 大阪市東区農後町4 ☎ (06)942-5816(代)
東 京 支 店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2 ☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8 ☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22 ☎ (0762)47-0200(代)

リム・スイ・キング
Liem Swie King
'78・'79全英バドミントン選手権チャンピオン

こめ。」



YONEX®



リム・スイ・キングの片腕。ヨネックス。

全英バドミントン選手権シングルス2連勝。ワールドカップ'79・'80、これも2連勝という実績を誇るリム・スイ・キングとヨネックスががっちりと手を結んだ。今、私の手のなかにあるのはヨネックス。まさに片腕。勝つ自信がますますわいてきた。と語るリム。フルカーボンシャフト。特殊アルミ合金フレームの超軽量ラケットB-8500にすっかり惚れこんでいる。ラケットは軽くするとヤワになるという常識を破り、超軽量100g以下という驚くべき記録をたてたヨネックス。勝者リム・スイ・キングと組んでますますコートのスターを独占。

B-8500 FULL CARBON SHAFT RACKET
Carbonex8

〈カーボネックス・エイト〉…色／イエロー・オレンジ・グリーン
重量表示／U(99g～95g) 2-U(94g～90g)

特別寄稿

ナショナルチームはもっと自覚を

――一貫した指導・強化体制を

小島一平

今年に入り、ワールド・カップに始まり、全英選手権、日中対抗、世界選手権とたてつづけにビッグイベントが開催され、私もバドミントン・ファンの一人として多くの興味を持った。

また、2月末には〝無冠の帝王〟である中国と、男女とも世界最強のインドネシアがシンガポールで激突したことは、どのイベントよりも注目に値するニュースであったことはいうまでもない。

この中国VSインドネシアについては後述することにして、いずれも私がこの目で確かめたわけではないが、テレビでの観戦と直接に選手から聞いた話を参考に、長年ナショナルチームの一員だった経験から、最近の日本のバドミントンについて述べてみたい。

まずプレーがどうのこうのというよりも、一番大きな問題は、バドミントン競技がそろそろプロ化の傾向にあり、既にヨーロッパの選手の何人かは、バドミントンの収入で生活しているという事実を認識しなければならないことだ。

もとよりインドネシアは、ご存知のように国技でもある関係からプレーヤーにとっては非常に恵まれた環境で、日本のアマチュアとは雲泥の差である。日本から見ればとても信じられないア・マ・チュ・ア・なのである。

それに加え、ヨーロッパの選手までが生活を賭けてバドミントンに取り組む現状を考えると、日本のプレーヤー、特に男子はますます取り残される危惧を感じてならない。

辛うじて飯野・土田組のダブルスの健闘が救いになるだけで、銭谷にしてみれば日本では連戦連勝であるにもかかわらず、外国の選手に通用しないといった現状では本人が一番苦しんでいることとは思うが、今一度ならず二度、三度と徹底的に原因を追求せねばならない。日本のチャンピオンが通用しないでは後進に与える影響は大であるし、日本男子の将来にかかわる重要な問題である。その他の男子に至っては参加する以前からおおよその結果がわかるといった具合で、番狂わせを起こすとか、素晴しい成績をのこすといった期待はまったく持てない。日本代表選手としてのプライド、責任感といったものは果たしてどこへ行ったのだろう、疑問でならない。

さて、インドネシアの強さは以前からのことであったが、全英のダブルス決勝、チュン・チュン、ワジュディ組（インドネシア）とスティーブンス、トレジェット組（イギリス）の試合をテレビで観戦したが、イギリスペアは従来のヨーロッパ独特のオーソドックスなプレーのかわすテクニックに加え、ここへ来て進歩が感じられたのはパワーとスピードがついてきたことだ。それこそ十分にインドネシアと対等に戦えるようになってきた。

これは彼等の努力と節制による結果といってしまえばそれまでであるが、先に述べたようにプロフェッショナルになったからには、

バドミントンの収入が生活の基盤になるため自ずと私生活においても、食べ物に始まりあらゆる面でバドミントンにプラスになるよう心掛けるようになり、以前にも増して、強烈にバドミントンに取り組む姿勢になることは間違いない。

日本選手が、今後世界チャンピオンの栄光をつかむ最良の道は、今までの練習時間を二倍に増やすこと、それでも良い結果が得られぬ場合は三倍、それでダメだったら諦めるしかない。

例えば一時間のランニングを二時間、コートでの練習を三時間から六時間、コートが取れぬ場合はトレーニングに時間をかけるといった具合に、要するに中味を濃く、しかも長時間にわたって体を目一杯動かすことである。言葉でいうのは簡単であるが、いざ行動に移すとなると至難の業であることはいうまでもない。

銭谷にしろ、土田にしろ現在のスタミナを倍増することにより、技術的には世界のトップと決して遜色はないのであるから、かならず道が開けるはずである。

技術的にシングルスの場合、地味なストロークではあるがハイクリアー、ドリブンクリアー、ドロップを徹底的にコントロールつけることが必要である。リム・スイ・キンを破ったプラカシュのドリブンクリアー・ハイクリアーの驚くべき正確さを見て、シングルスでのクリアーの占める比重がいかに大きいかを改めて痛感した。

またダブルスではネット際のストローク、ドライブ、プッシュとそのレシーブ、そしてサービスであろう。サービスの重要さと、ネット前で叩くか止めるか、レシーブをいかにネット際に返球できるかがポイントになるような気がする。

そして自分自身を精神的にも肉体的にもコントロールでき、自分の欠点を良く知り、また逆に自分の長所を伸ばすことが必要不可決である。男子の世界チャンピオンがまだ日本から生まれないのは寂しい。とにかく目標を世界チャンピオンに絞り奮起してもらいたい。

さて中国VSインドネシアの試合であるが、予想を裏切り、男子は中国、女子はインドネシアの勝利に終わった。インドネシアはワジュディが故障で欠場、ハルトノも出場せず、二枚看板を欠いたチーム編成ではあったが、ナンバーワンのリム・スイ・キンが韓健に激戦の末敗れたのであるから、中国の底力は推して知るべし、恐しいほどである。

女子は中国ナンバーワン、世界でも実力トップの劉霞が若手のイバナに敗れるという番狂わせが起こり、ここに来て来年のユーバー杯を目指すインドネシアの強化が着々と実ってきていることを示している。日本にとって最大の強敵はこのインドネシアで、現時点ではインドネシアがややリードしていると考えねばならない。女子もこれから一年、王座に安住することなく死ぬ苦しみを味わわねばタイトル保持は危険きわまりない。

話が横道へそれたが、中国には冬の中国からひとっ飛びに真夏のシンガポールへ移動したハンディがあったことも確かだろう。これが気候的に良い条件であったなら僅かの差ではあるか中国が勝利を収めるであろうし、意外に圧勝といったケースが考えられるほど、中国の実力というものは計りがたい。

いずれ中国のI・B・F加盟も実現するであろうし、日本にとってはますます厳しい状況になってくることは周知の事実であり、ここで腰をすえて選手強化というものを、協会なり選手が最高のスタッフを組んで真剣に考えねばならない。

ナショナルチームを指導する人達には、徹底した厳しい練習に打ち込ませるとともに、私生活もコントロールするぐらいの迫力で指導に当たってもらいたい。先日の全日本実業団ではナショナルチームの何人かが、無惨な負け方をしたと聞く、残念であると同時に恥ずかしい感じがしてならない。

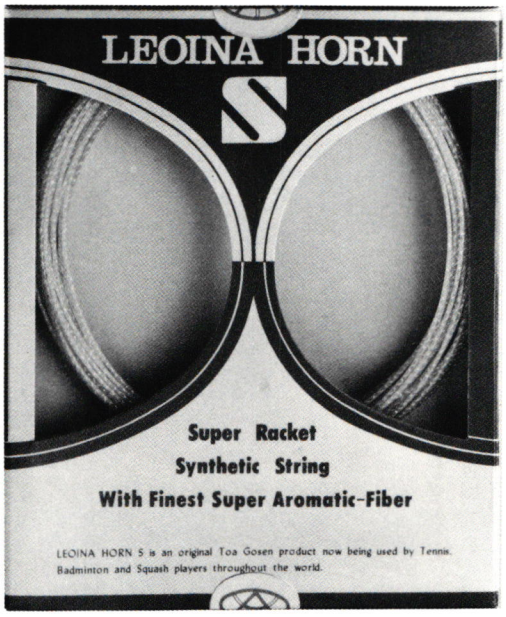
ナショナルチームの選手の入れ替えもどんどん実行し刺激を与え、常に安堵感を持たせないで若い選手にチャンスを与えることも大切である。

最後に、私も長い期間バドミントンに取り組んできたが、年を取るとともに、瞬発力、持久力、根気など目に見えて落ちてくるのが否めなかった、ナショナルチームのメンバーには一日一日を大事に、後で悔いが残らぬような選手生活を送って欲しいと願っている。

苦言を呈したが、ひとつの発奮材料にして欲しいという気持でいっぱいである。



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市葺合区八雲通３－１－25

☎078(232)1991(代)

▼一般男子団体戦

▽4回戦

ヨネックス 3—0 富士重工宇都宮(栃木)
(東京)
スワロー化研 3—1 金沢市役所
(大阪) (石川)
KDD東京 3—2 三井造船玉野(岡山)
(東京)
電電北海道 3—2 大津市役所
(北海道) (滋賀)
トヨタ自動車工業(愛知) 3—0 東京都庁
(東京)
横浜市役所 3—2 丸善石油下津(和歌山)
(神奈川)
富士フイルム富士宮(静岡) 3—2 松下電器産業(大阪)
河崎ラケット 3—0 三菱重工長崎(長崎)
(東京)
高岡市役所 3—0 大日日本電線(兵庫)
(富山)
札幌鉄道管理局(北海道) 3—0 三菱電機長崎(長崎)
住友金属和歌山(和歌山) 3—0 三菱重工名古屋(愛知)
関東自動車工業(神奈川) 3—0 宇部興産(山口)
電電近畿(大阪) 3—1 鶴岡市役所(山形)
川崎製鉄水島(岡山) 3—1 東京トヨペット(東京)
日本自動車速機(静岡) 3—0 三菱重工横浜(神奈川)
電電東京(東京) 3—1 新日鉄広畑(兵庫)

▽5回戦

ヨネックス 3—0 スワロー化研
電電北海道 3—1 KDD東京
トヨタ自工 3—1 横浜市役所
河崎ラケット 3—0 富士フイルム
高岡市役所 3—0 札幌鉄道管理局
関東自工 3—0 住金和歌山
電電近畿 3—0 川崎製鉄水島
電電東京 3—1 日本自動車速機

▽準々決勝

ヨネックス 3—0 電電北海道
河崎ラケット 3—0 トヨタ自工
高岡市役所 3—0 関東自工
電電東京 3—0 電電近畿

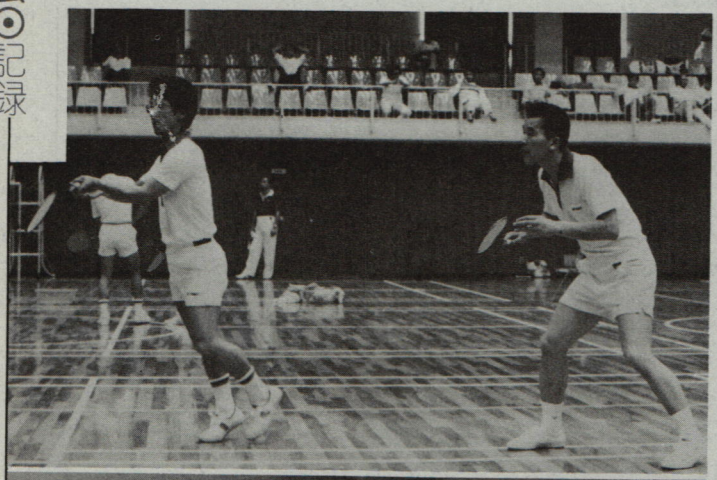
▽準決勝

ヨネックス 3—0 河崎ラケット
高岡市役所 3—2 電電東京

▽決勝

ヨネックス 3—1 高岡市役所

辻	2	15	15	11	0	関村
長谷川	2	15	2	15	11	0	米
栂野尾	2	15	15	6	0	今泉
飯野	2	15	3	15	0	米沢
長谷川	0	5	11	11	2	米
		15	15	15		
飯野	2	15	15	1	0	今泉
		15	3	1		





▼一般女子団体戦

▽4回戦

サントリー 3—0 富士重工群馬(群馬)
(大阪)
琴平電鉄 3—0 滋賀銀行
(香川) (滋賀)
日本電装 3—2 百十四銀行
(愛知) (香川)
電電東京 3—2 豊田織機
(東京) (愛知)
ヨネックス 3—0 住友金属鹿島(茨城)
(東京)
三洋電機大阪(大阪) 3—0 関東自動車工業(神奈川)
旭光学益子(栃木) 3—1 トヨタ自動車工業(愛知)
河崎ラケット 3—0 日立戸塚
(東京) (神奈川)

▽準々決勝

サントリー 3—1 琴平電鉄
電電東京 3—1 日本電装
ヨネックス 3—1 三洋電機
河崎ラケット 3—1 旭光学益子

▽準決勝

サントリー 3—2 電電東京
河崎ラケット 3—1 ヨネックス

▽決勝

サントリー 3—0 河崎ラケット

谷	2	15	15	8	1	近藤
東海林	2	15	7	15		
		15	9	15		
徳田	2	15	15		0	湯木
高田	2	15	8	5		端
原口	2	12	11	2	1	近藤
		10	9	11		

▼一般男子シングルス

▽5回戦

銭谷　欽治　2―0　寺田　繁（河崎ラケット）（富士通川崎）
坂本　宏志　2―0　日下　昇（トヨタ自工）（百十四銀行）
長谷川博幸　2―0　米　正隆（ヨネックス）（高岡市役所）
宮森　庄吉　2―1　管　敏明（電電東京）（関東自工）
松井　智治　2―1　冨田　章夫（高知サンスポーツ）（電電近畿）
今泉　勉　2―0　秋庭　一生（高岡市役所）（鶴岡市役所）
飯野　佳孝　2―0　中井　基夫（ヨネックス）（河崎ラケット）
土田　証雄　2―0　高橋　清（電電東京）（関東自工）

▽準々決勝

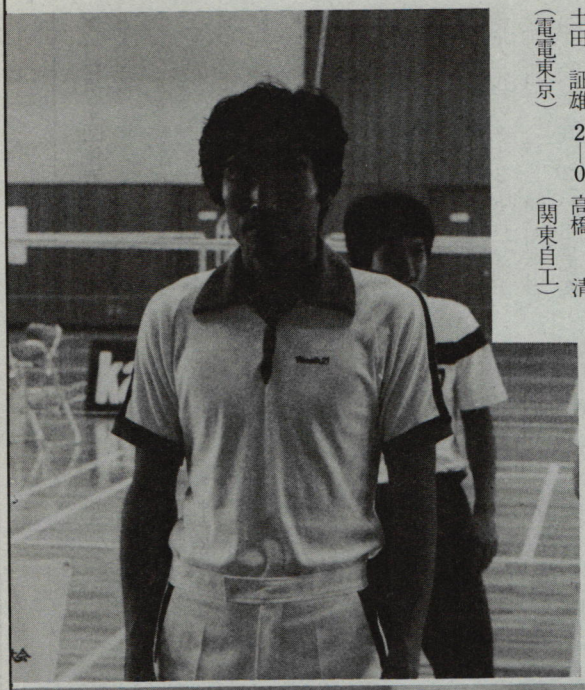
銭谷　2（15―5　15―10）0　坂本
長谷川　2（15―10　15―9）0　宮森
今泉　2（15―2　17―14）0　松井
土田　2（15―12　15―12）0　飯野

▽準決勝

銭谷　2（15―8　15―6）0　長谷川
土田　2（15―7　15―7）0　今泉

▽決勝

銭谷　2（15―8　15―11）0　土田



▼一般女子シングルス

▽4回戦

湯木　博恵　2―0　葛西　明子（河崎ラケット）（サントリー）
大塚ソノエ　2―0　横山ナルミ（ヨネックス）（サントリー）
東海林文子　2―0　沢内真由美（サントリー）（河崎ラケット）
近藤　小織　2―0　平　久美子（河崎ラケット）（三洋電機）
徳田　敦子　2―0　日山　裕子（サントリー）（旭光学奇子）
端　洋護　2―0　原口　恵子（河崎ラケット）（サントリー）
渡辺多喜子　2―1　関根　和子（河崎ラケット）（ヨネックス）
米倉よし子　2―0　小寺　裕美（電電東京）（松本組）

▽準々決勝

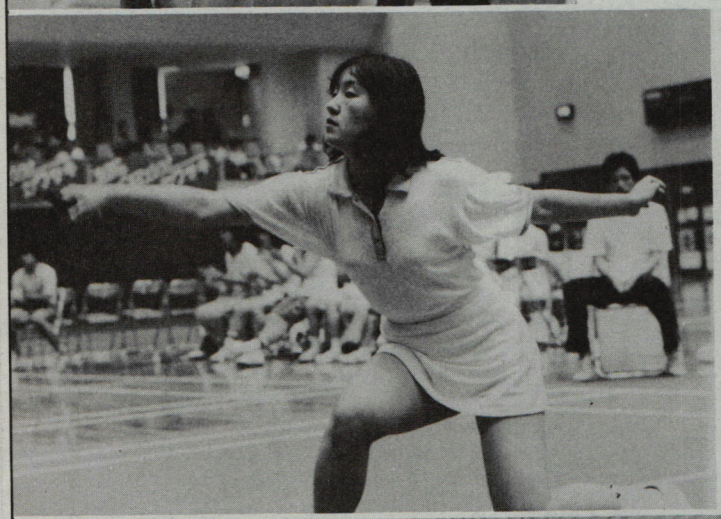
湯木　2（11―5　11―0）0　大塚
近藤　2（12―10　0―11　11―3）1　東海林
徳田　2（11―7　12―11）0　米倉
湯木　2（11―5　12―11）0　近藤
端　2（11―7　11―7）0　端
米倉　2（11―0　11―4）0　渡辺

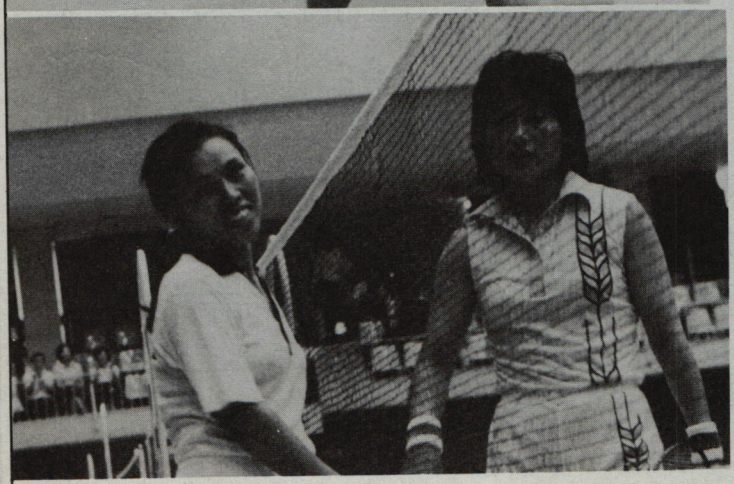
▽準決勝

徳田　2（11―7　12―11）0　米倉
湯木　2（11―3　12―9）0　徳田

▽決勝

湯木　2（11―3　12―9）0　徳田





▼一般男子ダブルス

▽5回戦

池田・尾崎　2―0　酒井・谷島
（電電東京）　（ゴーセン）
宮崎・森下　2―0　遠藤・藤平
（サントリー）　（KDD）
栂野尾・飯野　2―0　梶川・磯野
（ヨネックス）　（トヨタ自工）
宮林・米　2―0　木村・遠藤
（高岡市役所）　（電電北海道）
辻・長谷川　2―0　後藤・芹沢
（ヨネックス）　（日本自動車連機）
銭谷・中井　2―1　栗・管
（河崎ラケット）　（関東自工）
今泉・米沢　2―1　秋庭・丸山
（高岡市役所）　（鶴岡市役所）
田所・土田　2―0　秋葉・平
（電電東京）　（横浜市役所）

▽準々決勝

池田			2	15	15	3		
尾崎				15	4		0	宮崎
栂野尾			2	15	15	6		
飯野				5	6		0	宮林
辻			2	15	11	15		
長谷川				5	7	15	1	中井
田所			2	15	15	4		
土田				3	4		0	米沢
栂野尾			2	15	5	15	6	
飯野				7	15	5	1	池田
								尾崎
田所			2	15	15			
土田				8	12		0	辻
								長谷川
栂野尾			2	15	17	7		
飯野				13	16	15	1	田所
								土田

▽決勝

栂野尾・飯野　2―1　田所・土田
（河崎ラケット）　（電電東京）

▼一般女子ダブルス

▽4回戦

徳田・高田　2―0　高野・仲田
（サントリー）　（ヨネックス）
端・高岸　2―0　上野・海賀
（河崎ラケット）　（旭光学叢子）
栂野尾・土田　2―0　渡辺・柳田
（ヨネックス）　（トヨタ自工）
日山・日向野　2―0　横山・西村
（旭光学叢子）　（サントリー）
米倉・三田　2―0　谷・葛西
（電電東京）　（サントリー）
東海林・原口　2―0　皆川・水谷
（サントリー）　（日本電装）
近藤・渡辺　2―0　山西・安田
（河崎ラケット）　（トヨタ自工）
関根・大塚　2―0　磯野・岩見
（ヨネックス）　（サントリー）

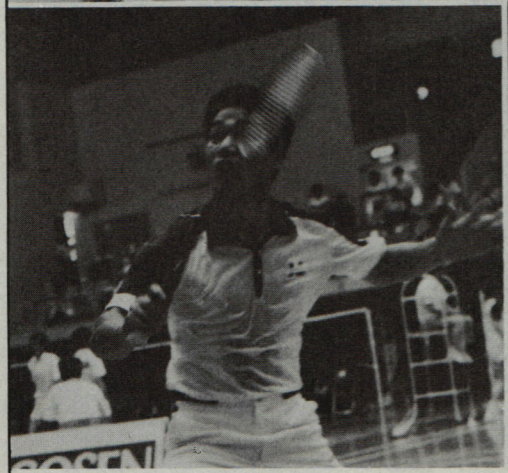
▽準々決勝

徳田			2	15	15	3		
高田				15	9		0	端
								高岸
栂野尾			2	15	15	10		
土田				15	4		0	日山
米倉				18	14			日向野
三田			2	15	5		0	東海林
								原口
関根			2	15	15	12		
大塚				18	14		0	近藤
								渡辺
徳田			2	15	15	0		
高田				15	2		0	栂野尾
								土田
米倉			2	15	15	0		
三田				4	4		0	関根
								大塚
徳田			2	15	18	9	15	
高田				11	17	15	1	米倉
								三田

▽決勝

徳田・高田　2―1　栂野尾・土田
（サントリー）　（ヨネックス）







▼30歳以上男子シングルス

▽準々決勝

赤塚　正三　2―1　小林　信行
（電電北海道）　（三菱化成四日市）

桜田　豊治　2―0　永井　博
（日産横浜）　（堀場製作所）

石川　順一　2―1　矢野　信夫
（小松製作所）　（日立造船因島）

山本　晴通　2―0　小橋　幸雄
（札幌鉄道管理局）　（クラレ西条）

▽準決勝

赤塚　2（15―15　15―0　15―6）0　桜田

山本　2（18―16　15―12）0　石川

▽決勝

赤塚　2（15―3　棄権）0　山本

▼30歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

渡辺・金子　2―0　福井・石津
（横浜市役所）　（三菱自工京都）

大原・竹俣　2―0　佐藤・遠藤
（東京都庁）　（リコー）

京屋・佐藤　2―0　末広・河添
（日本石油根岸）　（宇部興産）

堺・今井　2―0　芳上・藤原
（河崎ラケット）　（三井造船玉野）

▽準決勝

渡辺　金子　2（15―12　4―15　15―7）1　大原　竹俣

堺　今井　2（15―2　15―4）0　京屋　佐藤

渡辺　金子　2（15―12　9―15　15―11）1　堺　今井

▼40歳以上男子シングルス

▽準々決勝

高橋幸治郎　2―0　堺　三徳
（いすゞ川崎）　（十条製紙伏木）

伊藤　雅昭　2―0　岡崎　健一
（電電東海）　（日本火災七尾）

大野　幸雄　2―0　木山　茂雄
（十条製紙伏木）　（興亜石油）

山本　能也　2―0　遠藤　啓治
（高知サンスポーツ）　（日本鋼管京浜）

▽準決勝

高橋　2（15―8　15―4）0　伊藤

大野　2（15―4　15―0）0　山本

▽決勝

大野　2（15―1　6―15　15―2）1　高橋

▼40歳以上男子ダブルス

▽準々決勝

浜中・日石　2―0　原・中村
（丸善石油松山）　（小松製作所）

堺・大野　2―0　谷口・横井
（十条製紙伏木）　（クラレ西条）

岡崎・飴谷　2―0　佐薙・三苫
（日本火災七尾）　（住友化学愛媛）

谷島・水口　2―1　遠藤・榎森
（不二越）　（日本鋼管京浜）

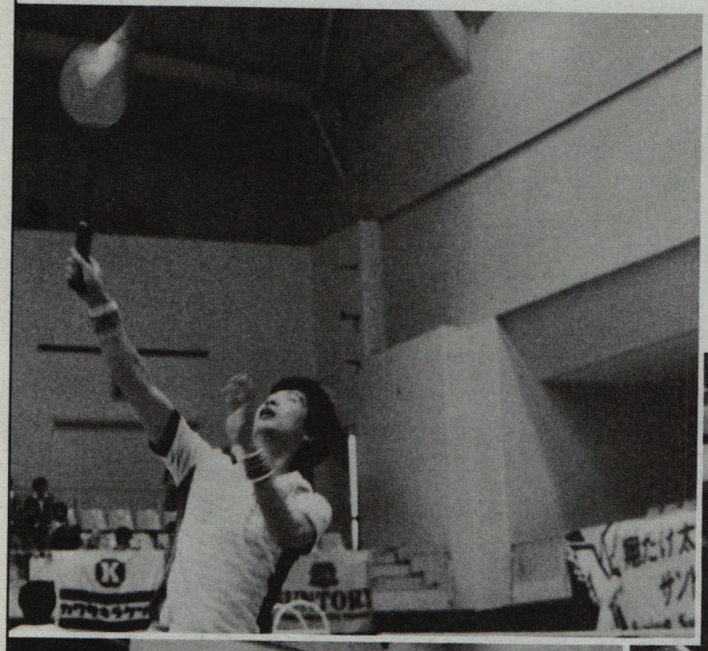
▽準決勝

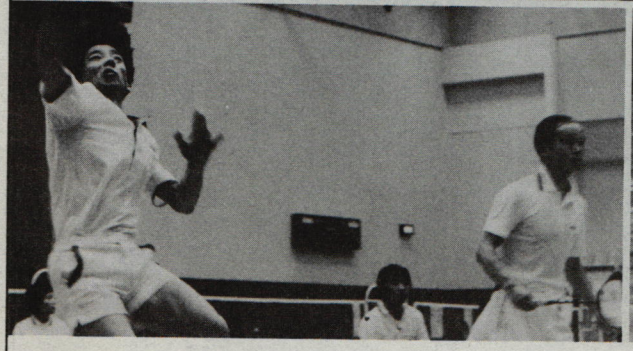
堺　大野　棄権　浜中　日石

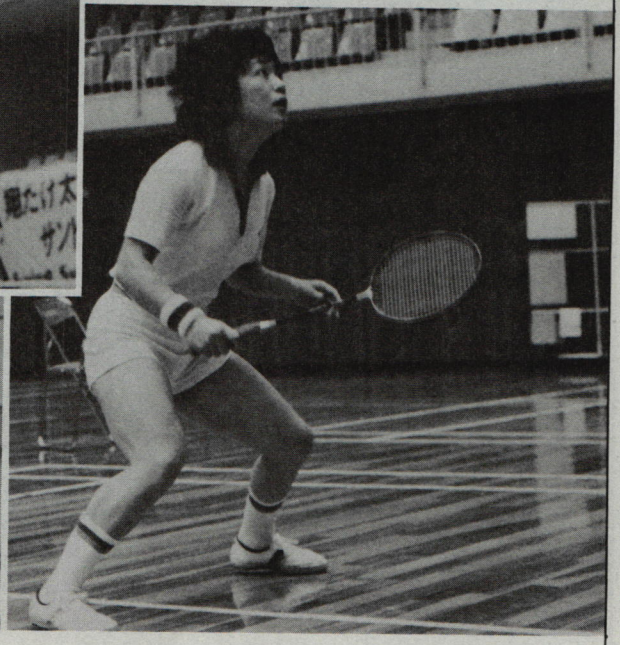
岡崎　飴谷　2（15―8　15―2　10―15）1　谷島　水口

▽決勝

堺　大野　2（15―3　15―3）0　岡崎　飴谷









元町バドミントン・キャンプ

バドミントン・ファンの皆様にはすっかりおなじみとなりました「元町バドミントン・キャンプ」を下記のとおり実施いたします。

充実したコーチ陣の指導で，楽しく，気持ちのよい汗を一緒に流してみませんか？

主　催：ラケットショップ元町
協　賛：ヨネックススポーツ，河崎ラケット，サンバタ（諸江製作所），ゴーセン
費　用：29,000円
場　所：群馬県吾妻郡嬬恋村大字千俣611
　　ヤマタ・ホステル　☎02799-6-0101
宿　舎：同　　上
期　日：昭和55年10月9日(木)～12日(日)
集　合：昭和55年10月9日午前8時30分
　　横浜駅西口リッチ会館前
　　〈出発：午前9時〉
交　通：バス（横浜旅行サービス）
募　集：50名（18歳以上）
申込み：申込用紙に必要事項を記入し，参加費をそえて直接持参または，現金書留にてお送り下さい（申込時に申込金10,000円を，残金は9月30日までに納入していただきます）。なお，キャンセルの場合，申込金はお返しいたしません。
締切日：昭和55年9月20日（ただし，定員に達ししだい締め切らせて頂きます）
その他：全員の方に，旅行傷害保険（スポーツ傷害保険含む）にはいって頂きます（保険料は費用に含まれています）

お申込みとお問合せは：

●ラケットショップ元町

横浜店　〒231　横浜市中区元町5－203
　　元町スカイビル4階
　　☎045－662－7133
渋谷店　☎03－400－7390
池袋店　☎03－988－0215
吉祥寺店　☎0422－21－7890
藤沢店　☎0466－26－2552
町田店　☎0427－28－6050

RACKETSHOP
Motomachi

ラケットショップ元町　◉横浜 Tel:5F/045-651-2020・045-662-9857 4F/045-662-7133◉渋谷Tel:03-400-7390◉池袋 Tel:03-988-0215◉吉祥寺Tel:0422-21-7890◉藤沢Tel:0466-26-2552◉町田Tel:0427-28-6050

ミントン選手権大会☆（6・13～18，愛媛県新居浜市）

クススポーツ男子団体を制す

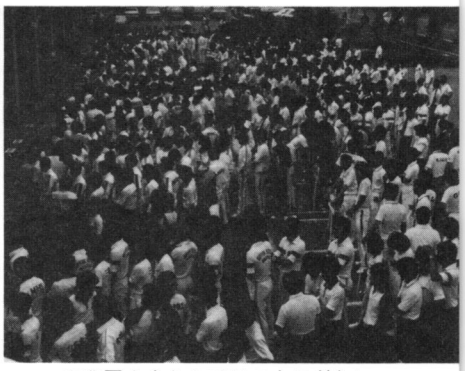
ばり電電東京を倒す★



団体戦では長谷川を破った米



チアガールも大会に花をそえた



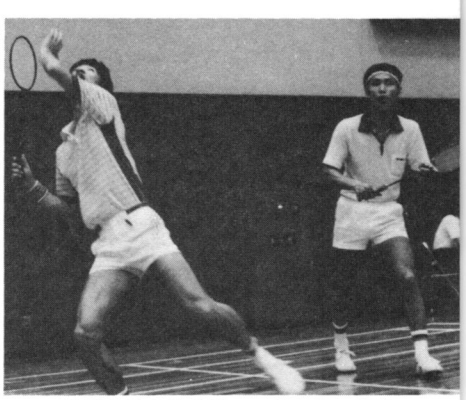
実業団大会ならではの大にぎわい



動きに冴えがなかった池田・尾崎



確実なプレーを展開する関村・米



破壊力はやはり随一の梅野尾・飯野

第30回全日本実業団選手権大会は、6月13日から18日まで、新居浜市において開催された。本大会は年を追うごとにマンモス化の一途をたどっており、今年は男子団体戦はじつに101チーム、女子団体戦も44チームが参加して行われた。

〝実業団〟大会という性格から、各選手とも団体戦に主眼をおき、ライバル意識むき出しの激しい戦いがくり広げられた。

＊

男子団体戦は戦前の予想どおり、ヨネックススポーツ、高岡市役所、河崎ラケット、電電東京の4強が順当に勝ち残った。

しかし、新人宮森（法大出）を加え、必勝の体勢でのぞんだ電電東京が、高岡市役所に2－3で敗れ、決勝進出を阻まれるという波乱があった。

電電東京としては、全日本チャンピオンペアの池田・尾崎組、土田と宮森のシングルスで3ポイント、順当にいけば田所・土田組のダブルスも取って4ポイントの星勘定であったが、このもくろみは、池田・尾崎組の敗戦によって、もろくもくずれ去った。

第1ダブルス、高岡市役所の関村・米組に対し、電電東京の田所・土田組は、配球の良さとスピードでまさり、ストレート勝ち。

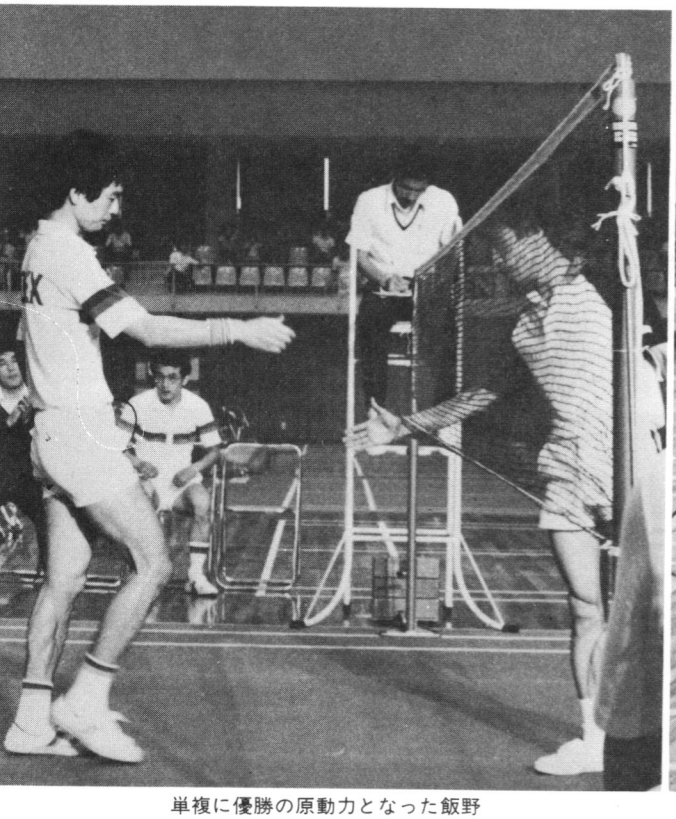
この時点で電電東京の圧倒的優勢と思われたが、つづく今泉・米沢組×池田・尾崎組の対戦で流れが反転した。

ワールドカップ、全英選手権と不調とはいえ、池田・尾崎のペアは全日本チャンピオン。一方の今泉・米沢は、ねばりに定評はあるも

☆秩父宮妃賜杯・労働大臣杯☆第30回全日本実業団バド

総合力で圧倒的な展開，ヨネッ

★高岡市役所よくがん



単複に優勝の原動力となった飯野



持てる力すべてを出し切って大逆転に成功の米沢

のの、実力的に一枚落ちるとみられていた。

ところが、激しい闘志をむき出しにし、猛烈な攻撃をしかけ、ファイナル・ゲームの末、高岡ペアが勝った。

このことが、勝負ポイントでの米沢の驚異的逆転につながる伏線となったのである。

シングルス・トップの土田は、米に対しスピード、ゆさぶりともに圧倒し、電電2－1でリード。

そして、次の米沢×宮森が勝負となった。米沢はダブルスで激しい攻防の末、勝ったとはいえフルゲームの消耗戦を経ている。一方の宮森はシングルス一本。今春法大を卒業したばかりのバリバリの若手。冷静に状態を分析すれば宮森の勝利というムードだった。

事実、第1ゲーム15－2という圧倒的スコアで先取。米沢のスタミナもついに切れたという状態で、第2ゲームも10－2と大きくリード。勝負あった、の感が両軍ベンチを支配した。

ところが、ここから米沢の信じられぬねばりが出たのである。これといってエースのない米沢だが、とにかくネットを越すのだという気持ちで拾いまくり、宮森の消耗を待った。そして12オールと追いつき、ここからは精神的裏打ちの差が出て、ファイナル・ゲームも15－11で、米沢が大逆転勝ちを収めた。

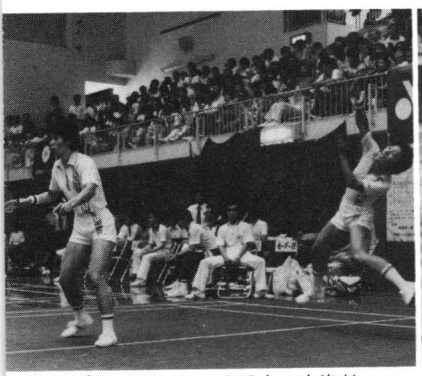
最終シングルスは、今泉が上げ潮ムードで田所を攻めつけ、一気にストレートで結着。高岡市役所のみごとなチームワークをみせつけた一戦だった。

一方のヨネックススポーツ対河崎ラケット戦は、第2ダブルスで河崎の今井・斎藤組が

ミントン選手権大会☆（6・13〜18，愛媛県新居浜市）

とばし女子団体に5連覇達成

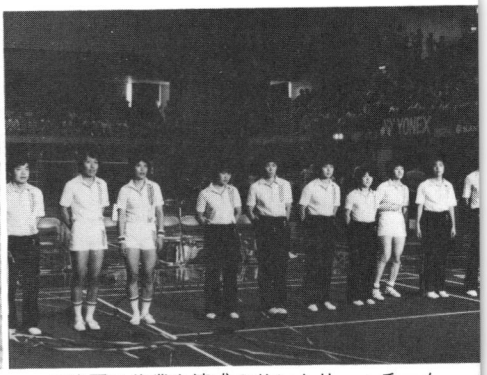
も準優勝に甘んじる★



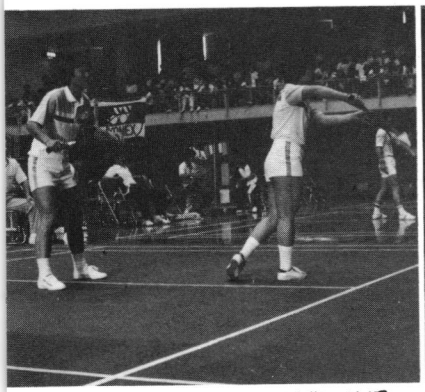
キャプテン谷とうまく呼応の東海林



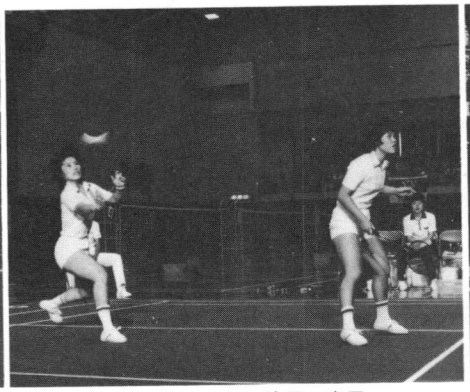
ベスト8入りにホッとした表情の日本電装



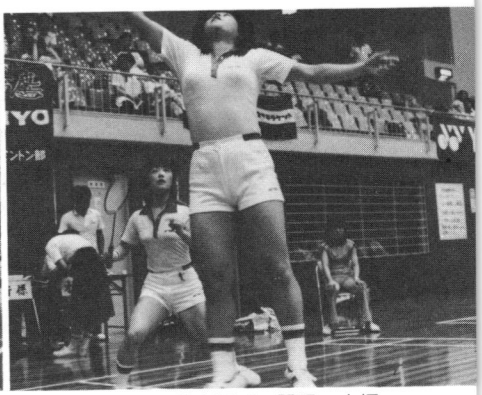
5連覇の偉業を達成のサントリー・チーム



あと一歩のツメが足りない近藤・渡辺



さすが第一人者の徳田・高田



安定した試合運びの関根・大塚

よく当たり、第1ゲームを先取するという気迫をみせたが、他の選手に元気なく、銭谷のシングルスまで回ることなく、ヨネックスが3−0の完勝。

＊

ヨネックス対高岡の決勝戦は、高岡がどこまでくい下がるかに興味が集まった。

対電電東京戦にみせたようなガッツとチームワークが再現されれば、ヨネックスとしても安閑としてはいられないと思われた。

しかし、残念ながら高岡チームは、すでに疲労がピークに達し、集中力も限界となっていたようで、ダブルスはまたたく間に連取された。

そのなかで、米は長谷川に対し、前半の劣勢をはね返す頑張りをみせ、ストレート勝ちを収めたのは立派である。

高岡としては、これが精一杯の抵抗で、つづく今泉は、飯野の速攻の前に完敗。ヨネックスの2連勝が実現した。

優勝したヨネックスは、シングルスに圧倒的なエースはいない代りに、飯野、辻、長谷川といった安定したメンバーを擁し、ダブルスにいたっては、梅野尾・飯野、辻・長谷川の実力一、二を争うペアを軸に、控えの後藤、林田と合わせ、今大会やはり断然のチームといえよう。層の厚さと全員一丸となるチームワーク、勝利への執着心が、みごとにヨネックスに実をもたらしたのである。

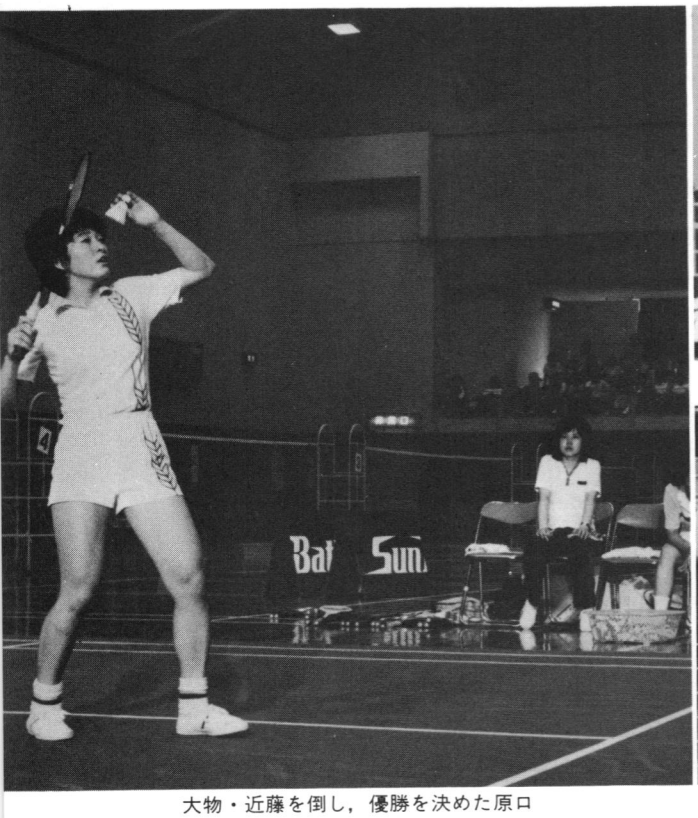
＊

女子団体戦もサントリー、河崎ラケット、

☆秩父宮妃賜杯・労働大臣杯☆第30回全日本実業団バド

サントリー不利の予想を吹き

★河崎ラケットまたして



大物・近藤を倒し，優勝を決めた原口



久しぶりのシングルスでも大活躍の徳田



豪快さ復活はいつの日か……近藤

ヨネックススポーツ、電電東京の4強にしぼられた。

5連勝をねらうサントリーに対し、どのチームが挑戦権を得るか、また阻止することができるかが、みどころとなった。

サントリーの懸念としては、結婚して退いた秋本の穴を、誰が埋めるかということであった。対する河崎は高岸（東女体大出）を補強し、ヨネックスは石田（日女体大出）を補強し、チーム力はアップしている。このためダブルスの展開しだいでは、サントリーといえども楽観はできないという様相であった。

ヨネックスを降してサントリーに挑戦した河崎は、近藤・渡辺組がサントリーの新ペア、谷・東海林組と対戦。あとの組合せからみてこの第1ダブルスが勝敗を大きく左右すると思われた。

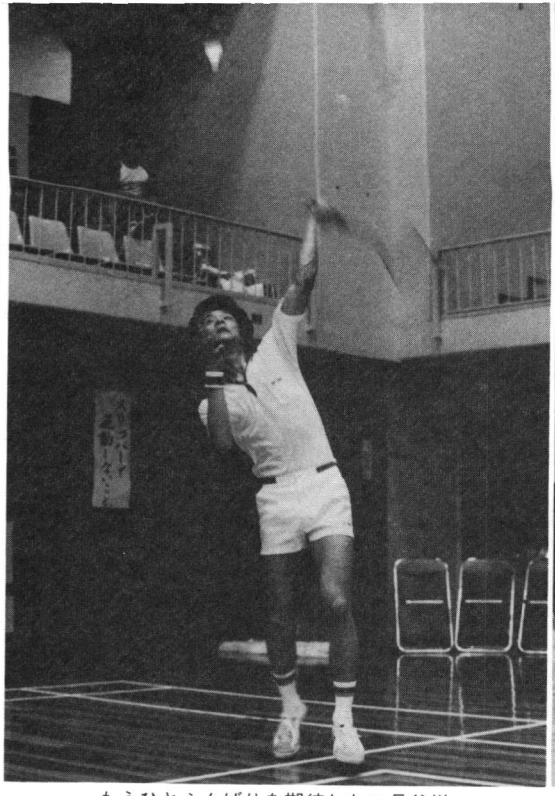
内容もそれにふさわしいものとなり、第1ゲームをサントリー、第2ゲームは河崎がそれぞれ取って、ファイナル・ゲームへと勝敗は持ち込まれた。

谷・東海林ともに前後から攻撃できるサントリーに対し、河崎は近藤が後から打って、渡辺が前で決めるというパターンのため、しだいに近藤に負担が重くのしかかってきた。

そして、たんねんにシャトルを散らしてじっくりとチャンスを待つ谷・東海林は、つねにリードを奪ったまま貴重なポイントをあげた。

第2ダブルスは、第一人者徳田・高田組に対し、湯木・端（旧姓千葉）組の対戦となり、やはりサントリー・ペアの堅陣は固く、湯木・端けんめいの攻撃も決め手なく、連続ポイ

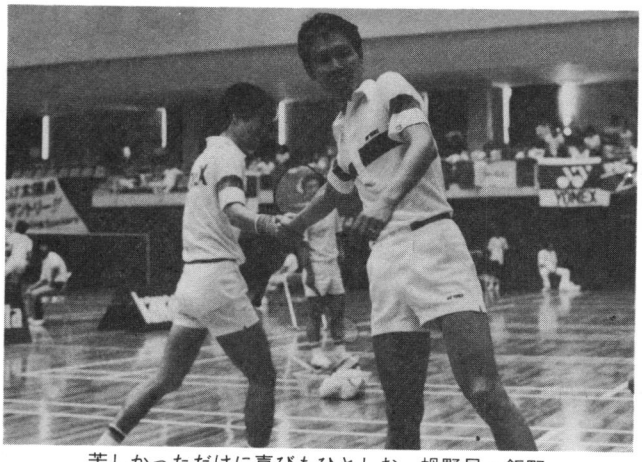
銭谷、巧さもそなえてV5



もうひとふんばりを期待したい長谷川



1ゲームも落とすことなく完勝の銭谷



苦しかっただけに喜びもひとしお，栂野尾・飯野

ントによって、ストレート勝ちを収め、5連勝へ王手をかけた。

＊

第1シングルスはサントリーの原口に対し、河崎は近藤をぶつけた。実力的には、実績のある近藤が楽勝かと思われた。第1ゲームから近藤は快調にとばし、軽く先取。

しかし、第2ゲームにはいると原口が丁寧にシャトルをつなぎ、一方の近藤は例によってミスを多発し、苦しい戦いとなり、ファイナル・ゲームへと結着は持ち越された。このゲーム終盤で近藤は、ショートサービスを多用するなど、ペースを切り換え、それが効を奏し、あと一歩まで追いつめた。

このことから第3ゲームは、近藤に流れが傾くかと思われたが、中盤のせり合いから原口が追いかける形となり、セッティングの末近藤を降した。

このゲーム中に、併行して行われた第2シングルス徳田×湯木戦で徳田が勝ったため、たとえ近藤が原口を降しても、すでにサントリーの優勝が決まっていたことも、この近藤のプレーに影響を与えていたかも知れない。

しかし、接戦をくぐり抜けた原口は、それなりの自信を身につけたはずである。やや伸び悩みのカゲリがみえていた原口が、これをきっかけに飛躍することを期待したい。

＊

個人戦については、銭谷、湯木、栂野尾・飯野組、徳田・高田組がそれぞれ優勝するという、ほぼ順当な結果となったが、途中の目立った動きを追ってみると――。

◇男子シングルス

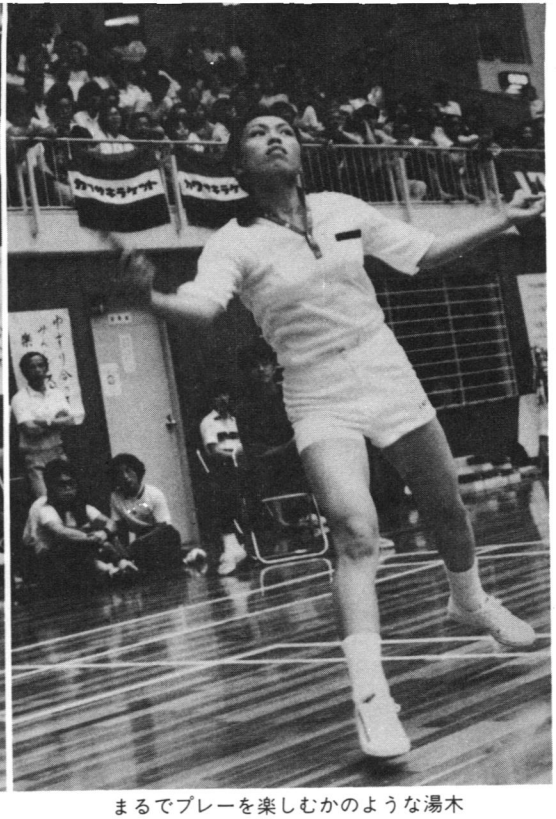
高知サンスポーツの松井が、辻（ヨネックススポーツ）、富田（電電近畿）を破ってベスト8に進出し、日大出の坂本（トヨタ自工）もフレッシュマンらしいはつらつとしたプレーで、ねばりでは定評のある日下（百十四銀行）を降して同じくベスト8に進んだ。

また、団体戦では貴重なポイントを落した宮森（電電東京）も、奮起一番、管（関東自

湯木、気魄をこめてV8



不屈の闘志，40歳を制した大野


まるでプレーを楽しむかのような湯木


マッチポイントを握ったが……米倉・三田

◇男子ダブルス

ベスト8入りを果たした中では、なんといっても宮崎・森下組（サントリー）の活躍が光る。これまで女子のはなばなしい活躍のカゲに隠れ、どちらかといえば〝裏方〟の要素が強かったサントリー男子だが、ここにきてようやく花開いたというべきだろう。単調になりがちな二人だが、思い切りの良さで今後の活躍を期待したい。

また、宮林・米（高岡市役所）のペアもよくがんばり、電電北海道の実力ペア、木村・遠藤組を倒してベスト8入りした。

◇女子ダブルス

栃木国体をひかえて、日山・日向野（旭光学益子）がベスト8へ、新人高岸とうまくコートを走った端（河崎ラケット）のペアもベスト8に入った。

しかし、ヨネックススポーツのミセスペア栂野尾・土田組は堂々のベスト4へ勝ち名乗りをあげた。お互いに夫君とともに好成績で、これまた称賛されよう。

◇年齢別

30歳シングルスでは常連の渡辺（横浜市役所）、鈴木（三菱重工横浜）が早々に姿を消し、伏兵赤塚（電電北海道）が優勝。同ダブルスでは、渡辺がんばり、金子とともに堺・今井（河崎ラケット）のペアを降して優勝。

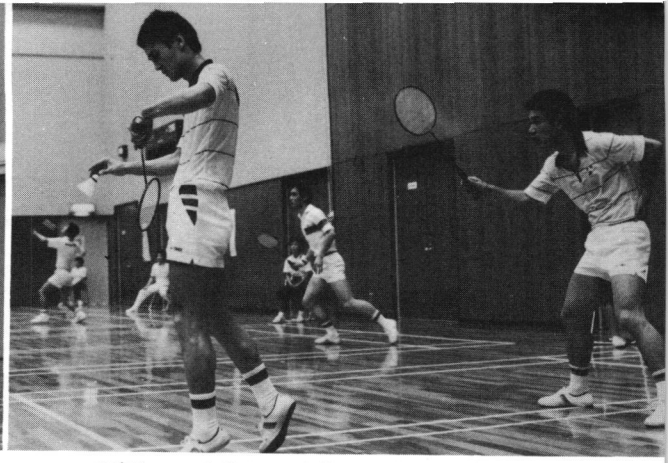
40歳シングルスでは、連日の走り込みでスタミナには自信のあった高橋（いすゞ川崎）が、十条製紙伏木の大野に敗れ、同ダブルスでも、堺・大野の十条製紙伏木ペアがみごとに栄冠を勝ち取った。

◇女子シングルス

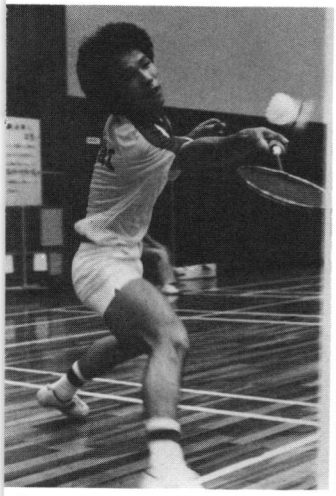
端（旧姓千葉、河崎ラケット）が、団体戦のヒロイン原口（サントリー）を降してベスト8に入ったのが目立った。ベスト16にとどまったとはいえ、新人平（三洋電機）、葛西、横山のサントリー勢の活躍も称賛されよう。



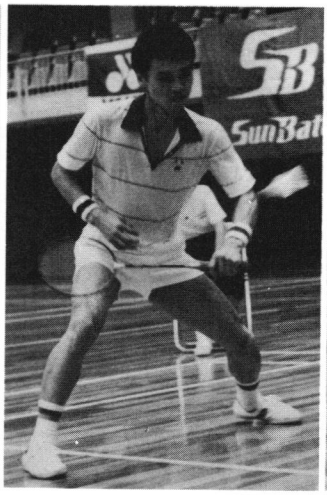
あと一歩の緻密さがほしい辻・長谷川



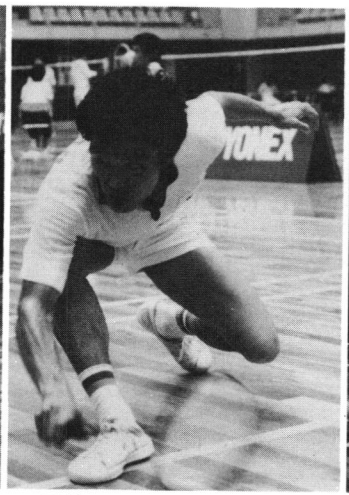
3度もマッチポイントを迎えながら涙，土田・田所



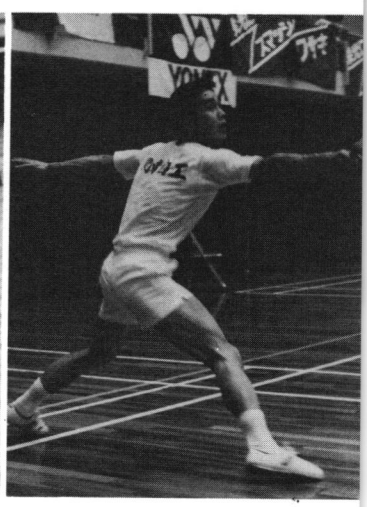
若さで暑さを吹き飛ばした坂本



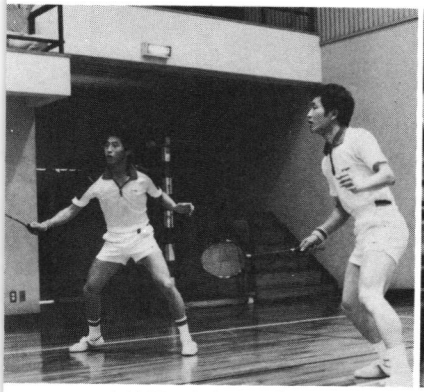
またも銭谷のカベに泣いた土田



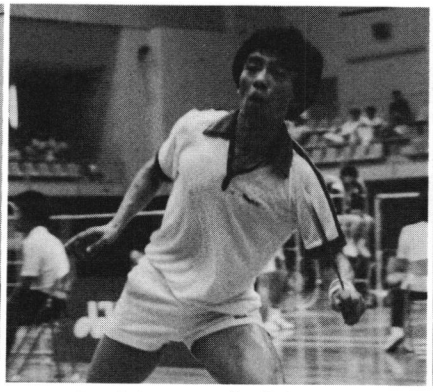
強敵を連破の松井はベスト8



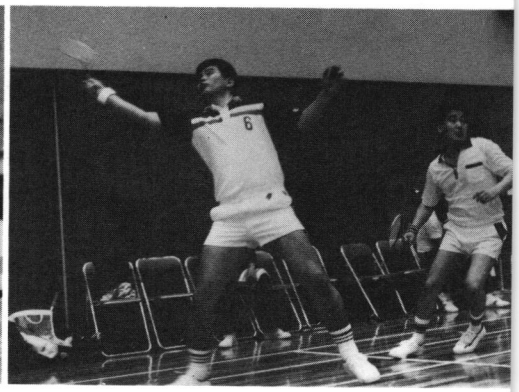
ベスト8にもう一息の管



大健闘の丸山・秋庭



カットとレシーブは健在の今泉

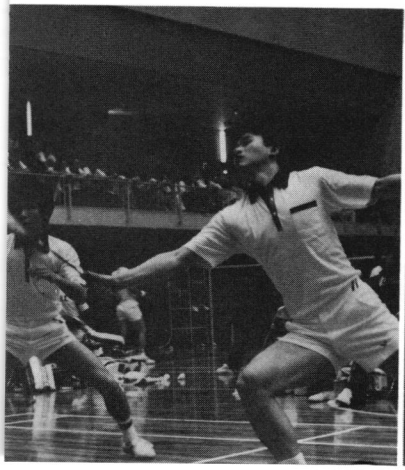


レシーブで持ち味をみせた今井・斎藤

コンビあざやか……谷口・坂本

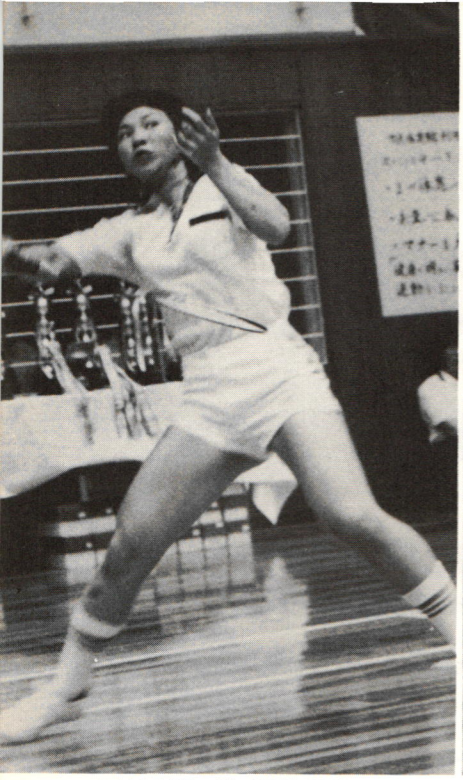
団体戦の雪辱を……宮森

変化球サービスが生きた宮崎・森下









まだまだ若い端（旧姓千葉）



疲労の極限だった米倉



奇跡の男!!米沢



ケガにも勝った渡辺・金子



大型コンビを披露，日山・日向野



さすがベテランの味，栂野尾・土田



チームをベスト8に，河村・平

20歳代の若さを誇る左から秋草，大野，高橋





近畿の旗頭，谷島・冨田

★昭和55年度関東学生バドミントン選手権大会★

西山ドラエモン完璧!!

4年北橋がんばり準優勝

山本インサイドワークで2連覇

Bブロックは山田(日体大)と浅田(東海大)が勝つ

昭和55年度関東学生バドミントン選手権大会は、6月3日から28日まで、駒沢体育館、江東区スポーツ会館をメイン会場に行われた。

男子Aブロックシングルスでは、学生界では圧倒的な強さをもつ西山(中大)が、やはり文句なしの優勝。2位には日体大の北橋が4年生の意地をみせて入賞した。奇しくも昨年と同じ順位となった。

中大の主将・上原もよくがんばってベスト4に入ったが、2部校の明大から高階もベスト4に進出し、気慨をみせた。

＊

同ダブルスでは、上原・西山の中大ペアと、羽根打ちサービスで勝ち上がってきた山本・若生(日体大)の決勝となった。第1ゲームこそ羽根打ちサービスで突破口を開き、対等にわたり合った日体ペアだが、第2ゲームは中大ペアの矢つぎばやの攻撃の前に、体勢を立て直すヒマもなく完敗した。

＊

女子Aブロックシングルスは、昨年の覇者、山本(筑波大)が今年も強く決勝へ進んだ。とくに準決勝では、春季リーグ戦で「ガッツ&フェアープレー賞」に輝いた枝(日体大)を降したのは、その実力を証明するものであろう。

決勝の相手は、東女体大同士の準決勝を勝ち抜いた川島。

ともにスマッシュとドリブンクリアーを武器に攻撃的なプレーを展開。そのためラリーがつづかず、ファイナル・ゲームとはなったものの、内容に乏しくいわば凡戦であった。

同ダブルスは、日体大の藤井・枝組と、山本・白松組(筑波大)の対戦。

高い打点からの攻撃を主体とする筑波ペアに対し、日体ペアはやや受け身に回りながらも、うまくシャトルを散らし、〝かわし〟のプレー。

そして第1ゲームを先取するや、日体ペアは白松に対するワンマンアタックをしかけ、攻守は完全にところをかえ、終始受け身となった筑波ペアは、反撃に移れず完敗のかっこうとなった。

＊

Bブロックは男子が日体大勢、女子が東女体大勢を中心にロングラン大会となり、男子シングルスは山田(日体大)、女子シングルスは浅田(東海大)が、男子ダブルスは目野・田部井組(日体大)、女子ダブルスは平野・須藤組(東女体大)がそれぞれ優勝した。

上位戦の記録は以下のとおり。

▼Aブロック男子シングル
▽準決勝
西山(中大) 2 15—1 15—7 0 高階(明大)
北橋(日体大) 2 15—8 15—8 0 上原(中大)
▽決勝
西山 2 15—5 15—3 0 北橋

▼Aブロック女子シングル
▽準決勝
山本(筑波大) 2 11—4 11—8 0 枝(日体大)
川島(東女体) 2 11—9 11—5 0 土田(東女体)
▽決勝
山本 2 11—2 5—11 11—1 1 川島

▼Aブロック男子ダブル
▽準決勝
山本 若生(日体大) 2 15—12 10—15 18—13 1 平野 高橋(早大)

上原 15—6 丹藤
西山 2 0 楠美（法大）
（中大） 15—9

▽決勝
上原 15—12 山本
西山 2 0 若生
15—2

▼Aブロック女子ダブルス
▽準決勝
藤井 15—10 小野
枝 2 0 高峯
15—11 （日女体）
（日体大）

山本 15—5 土田
白松 2 0 笠松
15—8 （東女体）
（筑波大）

▽決勝
藤井 15—9 山本
枝 2 0 白松
15—11

▼Bブロック男子シングルス
▽準決勝
山田 15—6 高野
（日体大） 2 0 （東農大）
15—5

田部井 10—15 西川
（日体大） 2 1 （日体大）
15—13
15—9

▽決勝
山田 15—10
2 1 田部井
15—6
15—12

▼Bブロック女子シングルス
▽準決勝
浅田 11—8
2 0 長谷川
11—7 （五川大）
（東海大）

元田 11—6
2 0 八重樫
11—8 （国士大）
（東洋大）

▽決勝
浅田 11—9
2 0 元田
11—4

▼Bブロック男子ダブルス
▽準決勝
目野 15—5 有賀
田部井 2 0 関山
15—2 （立大）
（日体大）

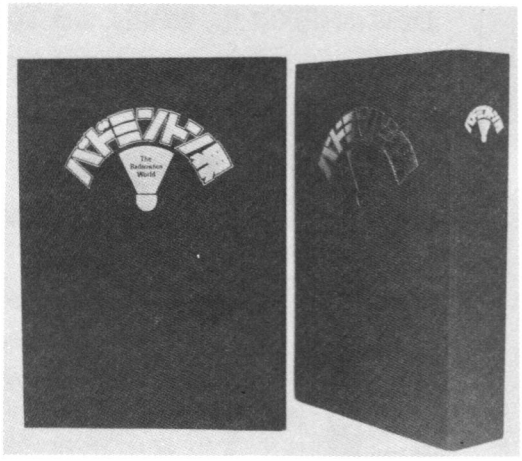
武野 15—8 木内
浦崎 2 0 岸
15—10 （早大）
（日体大）

▽決勝
目野 15—6 武野
田部井 2 0 浦崎
15—5

吉岡 6—15 井出
須藤 2 1 吉原
15—17 （昭女大）
15—16
（東女大）

平野 15—12 菅
須藤 2 1 伊井
15—12 （東女体）
15—2

▽決勝
平野 15—9 吉岡
須藤 2 0 須藤
15—12



専用合本バインダー 定価改訂のお知らせ

本誌は毎月発行ごとに保存しておけば，バドミントンの百科辞典となるものです。そのために本誌１年分12冊を，穴をあけたり，ノリを使ったりすることなく，かんたんに，しかも長い年月にわたって保存しておくことのできる“**専用合本バインダー**”をつくってまいりました。

しかし，用紙，レザーをはじめとする資材の値上りにより，このたび定価を**１冊 700円**に改定させていただきます。まことに申し訳ありませんが，ご了承のほどお願いいたします。〔本誌綴じ込みの振替用紙には旧定価＝500円と印刷してありますが，**訂正のうえ**ご利用くださるようお願いいたします〕

〈バドミントン界専用合本バインダー〉
表紙＝黒色レザーにタイトル銀パク押し
金具＝特殊クリップ使用
送料＝１冊： 300円，３冊まで 600円，４冊以上すべて 700円
お申込み方法＝１冊定価 700円に，送料を加えて，本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ，お近くの郵便局からお申し込みください。

オリジナルTシャツができました



☆特価 1200円

〔送料〕 1枚＝200円，4枚まで300円，8枚まで450円，9枚以上550円〔全国均一〕

サイズS，M，L

「バドミントン界」のオリジナルTシャツができました。

白地にブルーで，「バドミントン界」のマークと，Guts & Fair Playの文字をプリントしたものです。

定価は1500円ですが，愛読者の皆様には，1200円に割引きとなります。上記の送料をプラスして，巻末とじ込みの振替用紙に枚数とサイズを明記のうえ，お近くの郵便局からお申し込みください。 バドミントン界編集部

編集室から

▼さきに開かれました第2回世界選手権と、全日本実業団大会のもようを中心にお届けいたします。多くの写真をお楽しみいただけたでしょうか。

▼新しいステッカーができあがりました。今回は、銀バクにレモンイエローと白で印刷したものです。値段はいままでどおりです。

▼本誌一年分12冊をかんたんに保存できる合本バインダーの定価をボール紙等資材の高騰により、一冊700円に改定させていただきます。悪しからずご了承ください。

▼読者カードをお待ちしています。ふるってどうぞ!!

おわび

本誌4月号に掲載いたしました〝創立20周年おめでとう八千代市バドミントン協会〟の記事は〝八代市〟の誤りでした。つつしんでおわびするとともに、訂正させていただきます。

バドミントン界 The Badminton World

1980年7月号 ©1980 通巻第129号

写真植字／サカキバラ写植
印刷・製本／根岸印刷

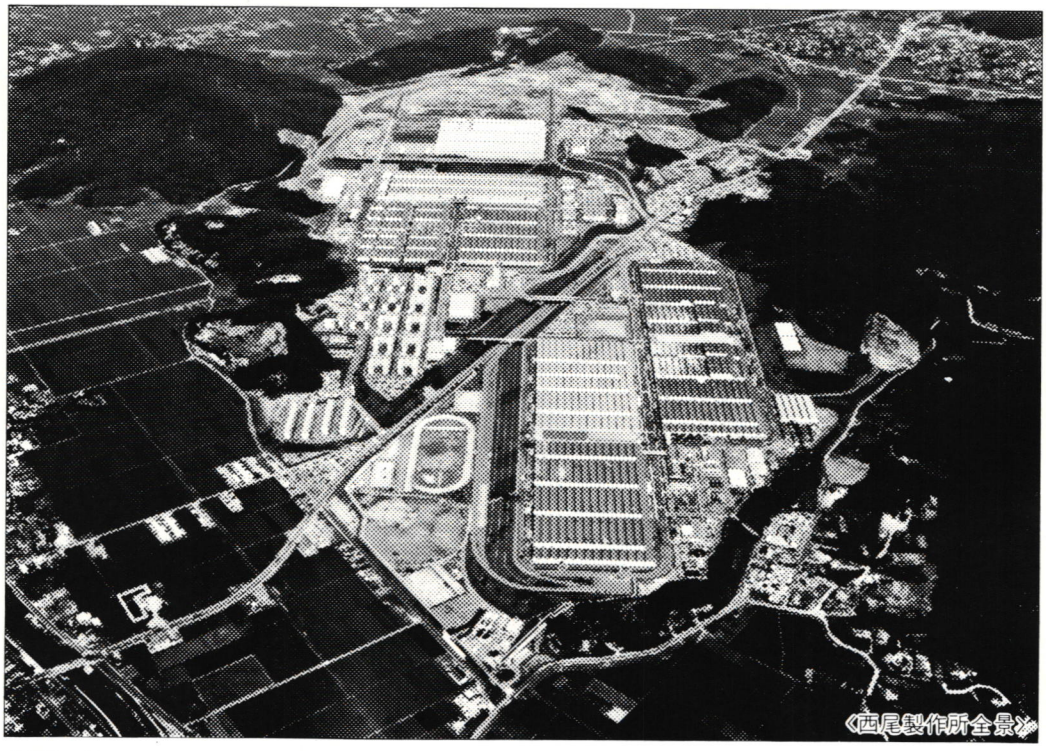
◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

定価＝300円 1年間予約購読料＝3000円(送料共)
振替＝東京8－10737

昭和55年7月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205 〒152
☎03－712－6952

自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!

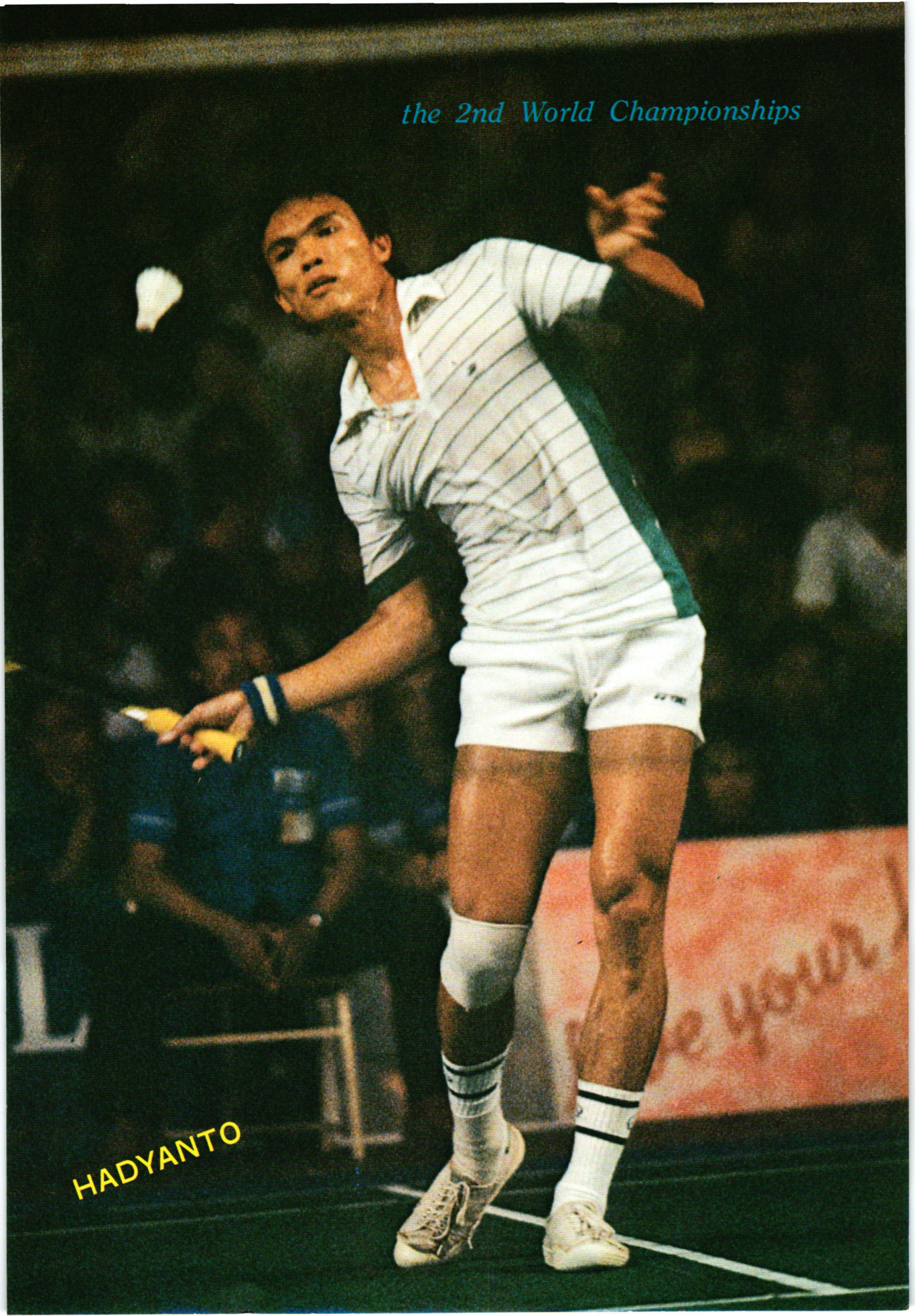

〈西尾製作所全景〉

《営業品目》

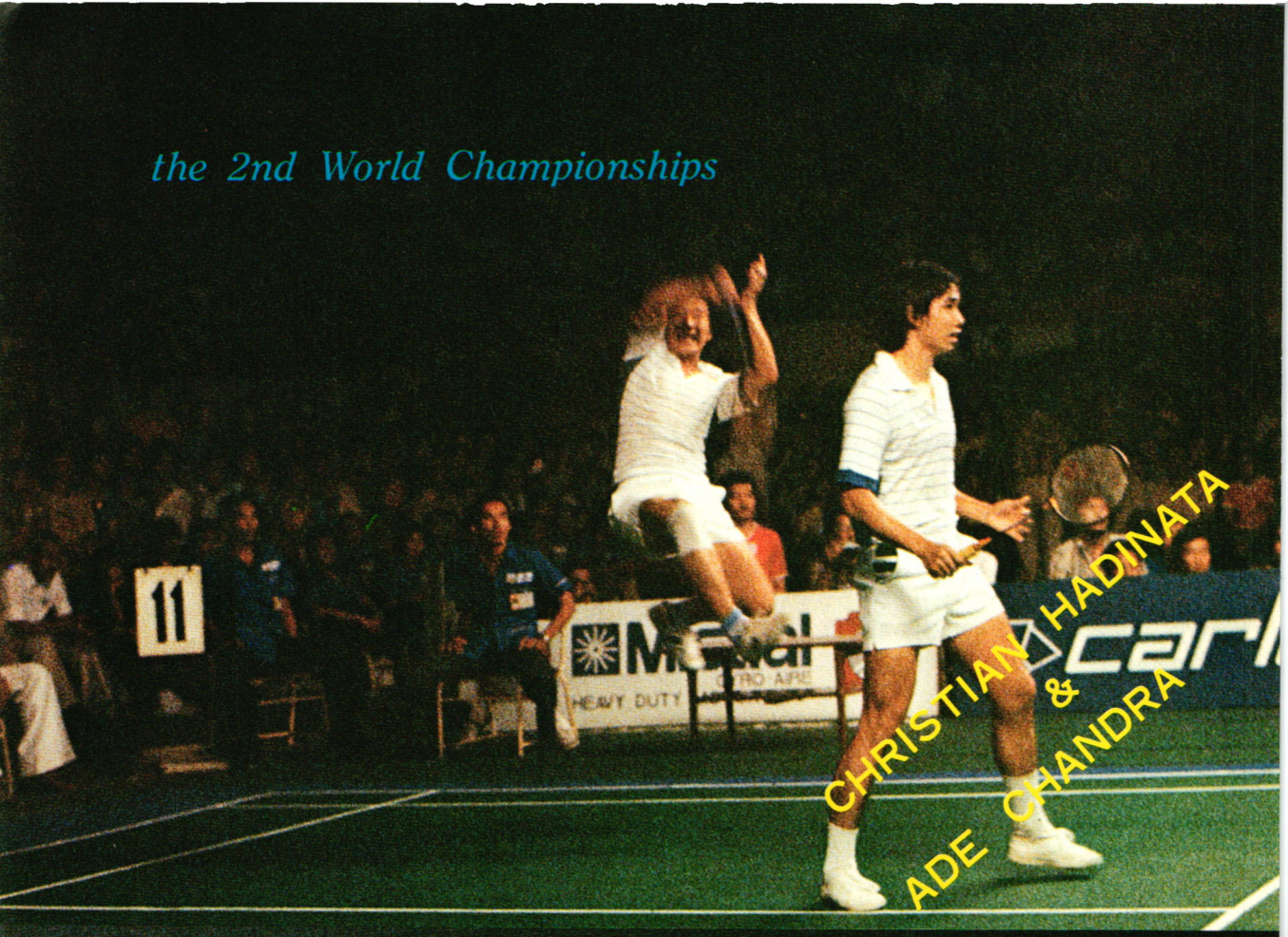
- ●スターター
- ●オルタネーター
- ●ダイナモ
- ●レギュレーター
- ●イグニッションコイル
- ●ディストリビューター
- ●マグネトー
- ●ホーン
- ●ワイパー
- ●ウインドウォッシャー
- ●各種電子制御装置
- ●排気ガス浄化装置
- ●カーエアコン
- ●カークーラー
- ●カーヒーター
- ●燃料噴射ポンプ
- ●各種メーター
- ●ラジエーター
- ●スパークプラグ
- ●フィルター

日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　(〒448)　TEL 刈谷(0566)22－3311


the 2nd World Championships
HADYANTO

the 2nd World Championships



CHRISTIAN HADINATA
&
ADE CHANDRA



KARTONO
&
HERYANTO

■出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

スターティング・バドミントン

バドミントン史上最強の天才女子プレーヤーが、その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――!!

★著者紹介★

ジュディ・ハッシュマン（Judy Hashman）は、アメリカを代表して20年間も第一線で活躍したJ・F・デブリンの娘として生まれる。全英選手権において、シングルス優勝10回、ダブルス優勝7回をとげている。また、アメリカ代表選手として14年間活躍、全米オープンでは単複にそれぞれ12回も優勝している。



これから始める人へ

ジュディ・ハッシュマン

後藤忠弘訳

すぐに役立つ決定版!!

好評発売中!!

指導者のハンドブック

B5変形判（182ミリ×205ミリ）

定価1200円（送料160円）

〈本書の内容〉

1　ラケットを持つ前に

バドミントンは楽しい／投げる力が基本／さあ、コートに出ようほか

2　ストローク入門

ラケットの握り方／バックハンドのグリップ／スナップを十分にきかせる／ラケットの振り方／バックスイング／フォワード・スイング／フットワーク／ストロークを身につけるための練習／ネットプレーのための練習ほか

3　クリアーとドロップ

クリアー／オーバーヘッドの場合／アンダーアームの場合／ドロップ・ショットほか

4　サービスの基本と上達法

ハイ・サービス／ハイ・サービスのテクニック／ショート・サービス／打点は高く、フライトは低く／その他のサービスほか

5　バックハンドを身につける

アンダー・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンド・ストローク／ハイ・バックハンドのコツ／バックハンドを練習する時のポイントほか

6　ウェアと用具

用具の四原則／シューズ／上着／ラケットほか

7　ネバー・ギブアップ

準備にベストを尽くす／自分が苦しい時は相手も苦しい／「もし……すれば」は禁物／目に見えない敵に勝つ／いくつもの練習を組み合わせるほか

8　集中力と精神力

〝勝つ〟信念が勝利をよぶ／チャンスのくるまで粘りつづける／目標をしっかり持つ／〝読み〟のできるプレーヤーに／未知に挑戦する喜びほか

9　コンディションの調整

うまくなるための要素／ランジングの練習／実力あるのみ／スタミナのもとは食事ほか

10　パターン練習

練習は試合以上のものを／精神のスタミナを／ハッシュマン式パターン練習／半面練習ほか

11　基本的な戦術

シングルスの戦術／サービスに安定性を／高度なことはやらなくてよい／タテにゆさぶる／ダブルスの戦術／一にも二にも攻撃／苦しくても〝考えた配球〟をほか

★日本の実情に合わせて梅野尾昌一・悦子夫妻がワン・ポイント・アドバイス!!

★連続写真；ルディ・ハルトノ、リム・スイ・キン、パデュコーン・プラカシュ、スヴェン・プリら7フォームを収録して、さらにわかりやすくなっています!!



DÉFI

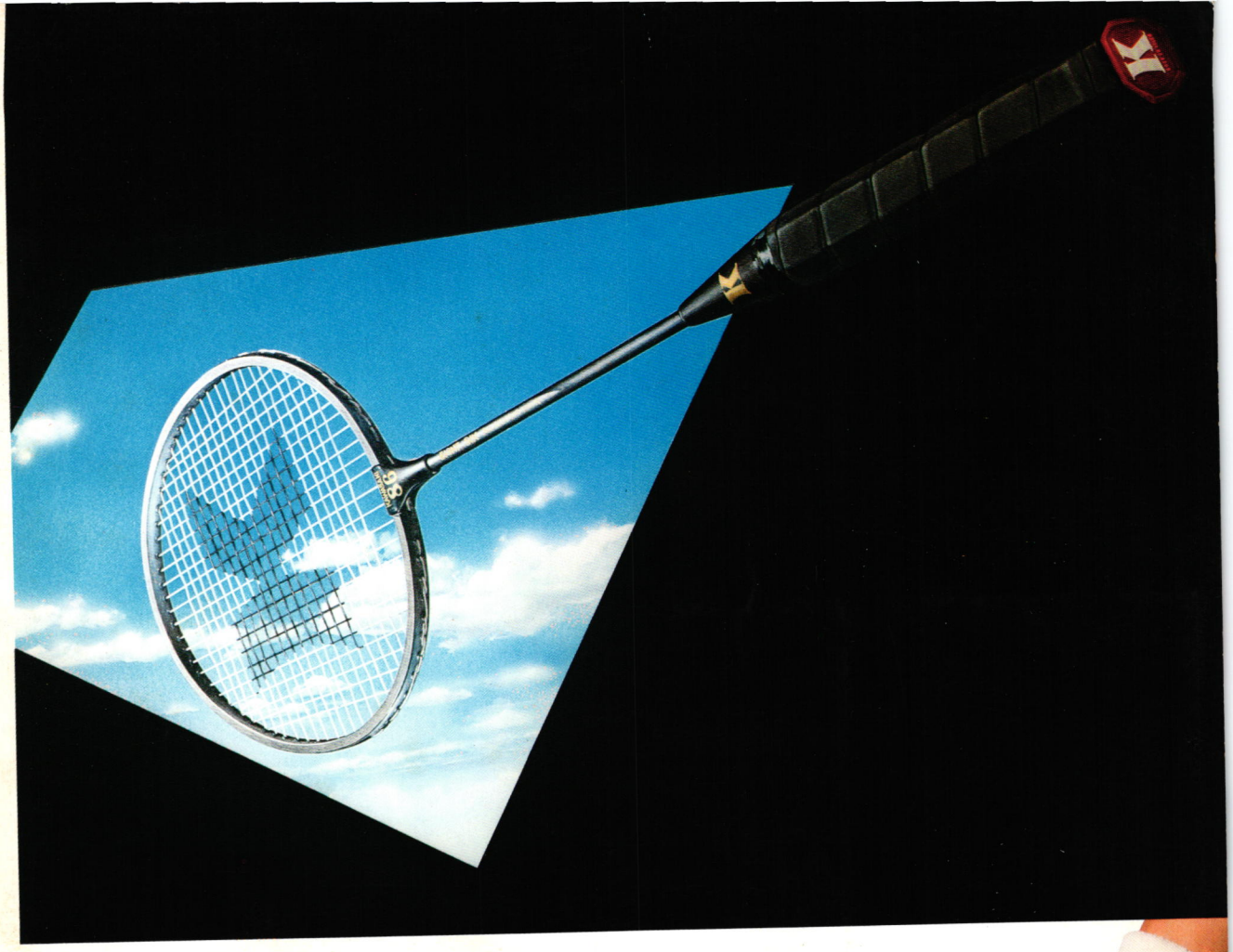
イタリアからColor Liberation最新版の到着。

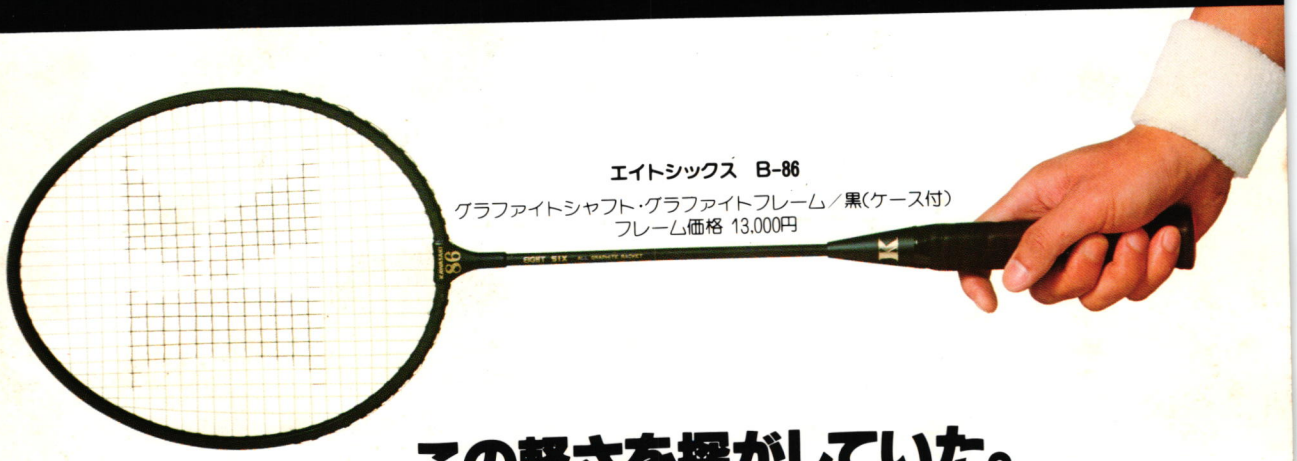
新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社





エイトシックス　B-86

グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)
フレーム価格 13,000円

この軽さを探がしていた。
ニューテクニックが生まれそうだ。

あるハイジャンパーは地球の引力に1cm多く逆らうために2万回も跳んだ。いつの場合でも、スポーツマンの流す汗ほど貴重なものはない。ときにシャトルがおよそ200km/hourを起すバドミントンの世界でも、多くの汗が流された。そして手に、美しいB-86。“スピード時代”への完璧な対応を目指して……。

軽さで群を抜き、剛さでまた群を抜く。オールグラファイトB-86。新しい時代の王道へ、いま。

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社